

京都部落問題 研究資料センター通信

第69号

発行日 2022年10月25日(年4回発行) 編集・発行 京都部落問題研究資料センター

当資料センター主催「差別の歴史を考える連続講座(全六回)」の第三回(七月八日)・四回(一〇月一四日)の講演要旨は次の通りです。詳しくは年度末に発行予定の講演録をご参照ください。

第三回 中世非人と

西大寺叡尊の慈善救済
講師 細川涼一さん
(京都橘大学名誉教授)

中世の非人とは、病(とくに癩病と呼ばれたハンセン病患者を含む皮膚病を患った人々)や身体障害によって社会体制から脱落・排除・疎外された人々、あるいは戦災などで住処を追われた人々である。それらの人々が都市(京都・奈良)の周縁部や交通の要衝に集住し、集団を形成したのが非人宿である。鎌倉時代最大の非人宿集団は、京都の清水坂非人、奈良の奈良坂非人であった。

藤原実資の日記『小右記』は清水坂非人の成立を示す史料である。長元四年(一〇三一年)三月十八日条の記事に、ある貴族が「清水坂下之者」に「塩」を施したこと

人たちが京都の清水坂の坂下に集住していた事をうかがい知ることができる。

「清水坂非人」が明確に史料上に姿を現すのは平安末期、院政期の貴族の日記『山槐記』である。保元三年(一一五八年)九月七日条に「清水坂非人」とのやり取りが記されており、この時期には既に京都の清水坂の坂下の所に集まっていた人たちが「清水坂非人」と呼ばれ、米などの施しを受ける権利を有していた事がうかがえる。

さらに、『今昔物語集』本朝仏法部巻第二十三十五話(『山槐記』とほぼ同時代)には「比叡山の僧が白癩に罹ったせいで、行くべき所がなくて清水坂に住んだが、身体障害がある非人に憎まれて亡くなってしまった」というくだりがあり、当時、清水坂が社会の脱落者の集まる場所として観念せしめられていたことがうかがえる。

このような癩病患者を中心とした非人と呼ばれる人たちに、仏教的立場から救済運動を展開したのが西大寺の叡尊とその弟子たちであった。叡尊の史料からは救済運動の様子をうかがうことができ、また、逆に中世の鎌倉時代の非人と呼ばれた人たちの実際を見て取

ることもできる。

叡尊の自伝『感身学正記』は清水坂非人への救済運動を展開した際の史料である。

建治元年(一二七五年)八月二十七日、叡尊は三百五十九人の清水坂の非人たちに、「菩薩戒」という大乘仏教の戒律を授けている。また、叡尊の弟子の観心房禅海が八百七十三人もの非人たちに小乗仏教の「齋戒」という戒律を授けている。そして食べ物なども与える救済事業を展開している。

建治元年(一二七五年)八月十三日付の清水坂非人長吏(非人宿の支配者)の誓約文である「七人連判」からは、清水坂非人が葬儀に際して遺骸を運ぶ代わりに、死者の衣服や仏前の食べ物を貰う権利を有しており、寺社の供養や葬儀以外の追善の仏事においても「非人施行」という形で施しを受ける権利を有していたことがわかる。

さらに、京都の町中などに癩病患者が出た場合、清水坂非人宿からの使者が患者の元を訪れ、家を出て非人身分として清水坂非人宿に入るように促していた。その使者に従わない場合は、集団で家へ押しかけるといふ威圧的な行動に出ている。また一方で癩病患者で

あっても重病でない場合は清水坂
非人宿の長吏に相応の志(金銭)を支
払い家に住み続けることもできた
のである。必ずしも癩患者ではな
かった長吏をはじめとする非人宿
の上層部が、癩患者を清水坂非人
宿に移住させ共に暮らしていた事
から、当時は癩を感染する病だと
捉えていなかったと言える。

癩病や身体障害によって社会体
制から脱落・排除・疎外された
人々は乞食が権利であり収入源で
あったが、非人たちが寺社の門前
に佇んで、ある意味で身体の悲惨
さを晒しものにして乞食活動の最
前線に出されたのがこの癩病患者
の人たちであった。

部落史の前提としての庭造りや
染物、皮革業に携わった職人集団
の河原者との比較でいえば一線を
画するところである。

第四回 学校教育からの排除と

被差別部落の葛藤
——統合教育と分離教育のはざま——
講師 伊藤悦子さん
(京都教育大学非常勤講師)

近代学校教育における部落問題
は近世村落共同体による被差別部
落(以降、部落と記す)の排除が

そのまま継続したために引き起
された問題である。

村落共同体による最初の近代的
な公共事業が学校設置・運営であ
った。本来は身分差別を解消しな
ければならないのであるが、そこ
に近世身分制による部落排除のシ
ステムや考え方が、そのまま持ち
込まれたのである。村落共同体が
部落を排除すると、結果として近
代学校教育から部落が排除されて
いくことになる。

日本の近代学校教育は国民を育
成するために始まる。一八七二年
(明治五年)に発布された学制が「邑
に不学の戸なく家に不学の人なか
らしめんことを期す人の父兄たる
もの宜しく此の意を体認し其愛育
の情を厚くし其子弟をして必ず学
に従事せしめざるべからずなり」
と皆学を宣言した。

学区という行政区を作り、そこ
に必ず一小学校を建てて「統合教
育」をめざす近代学校教育である
が、その実施過程で構造的に「身
分差別」を内包しながら進んでい
く。国民教育がめざすべきは部落
も含めた「共学」である。しかし
村落共同体の部落に対する近世的
排除観念が「別学」という学校単
位の排除を生み出したのである。

図1のように、めざすべき「共
学」と、近世的排除である「別
学」をめぐる、部落の主体的営
為の強弱を考慮して、四つの類型
で部落における近代学校教育の定
着過程を考察した。

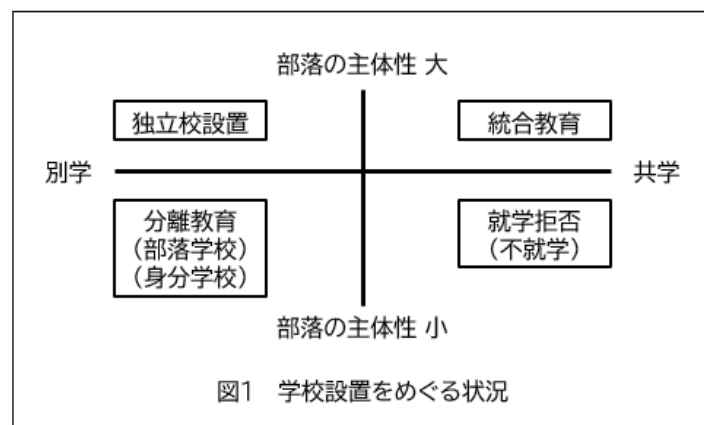


図1 学校設置をめぐる状況

勅令や法律が出て学校制度が始
まるのだが、その制度を実現する
ために具体的に動いたのは「学
区」を構成する村落共同体であ
る。村が国の方針を受けて資金を
集めて学校を建てたのである。独
立校として村を維持していた部落

の中には財力豊かな村もあり、そ
の多くが主体的に部落だけが校区
の部落の子どもたちが通う「独立
校」を建てた。(図1の左上)京都
では蓮台野村と柳原村(荘)がそれ
にあたる。

蓮台野村の場合、学制発布二年
前(一八七〇年)に、当時の蓮台野村
の有力者(医師)であった益井茂
平が私財を投げ打って「独立校」
である蓮台野(後の楽只)小学校を開
学し、自ら校長を務めている。学
制発布の翌年(一八七三年)には男子
五〇人、女子二二人が在籍する学
制に基づく小学校として開校して
いる。開校式には京都府知事が出
席したという記録が残っている。

蓮台野村は一八七五年には鷹峯
小学校を有する隣村(大門村)と合併
することになる。合併した新しい
一つの村に二つの学校が存在する
状態となったが、蓮台野村は主体
性を貫いて蓮台野小学校を「独立
校」として維持し続けていくこと
になる。自ら「別学」の道を選ん
だのだ。《辻ミチ子「民衆と町自治―
町組と小学校」(『季刊論叢 日本文化
八『町組と小学校』』角川書店 一九七
七)》

兵庫県の東播磨の場合は記録に
残る限り一八七三年から七五年に

三八部落に「独立校」が建てられた。加東、加西、多可の三郡については、すべての独立村部落に「独立校」が建設されている。《東野正明「播磨地方における『身分学校』の研究（一）東播地方の史料と分析」（安達五男編著「近代の教育と部落問題」明石書店 一九八三）》

奈良県の場合も部落に二五校の「独立校」が建てられるが、明治の五年から約一〇年の間は他の村に劣らない就学率であった（一八八二年、八三年の就学状況は、部落独立校平均就学率は六七・九%、県全体は七〇・三%）《奥田善則「大和国における小学校就学状況―明治一五年『公立小学校設置開申書』から―」（『奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要』2号一九九五）》

一方、本村の片隅に存在していた独立村ではない小規模な部落（枝村）の場合、財力も乏しく主体的に「独立校」を建てることはできなかった。枝村の子どもたちは本村が建てた学校に就学することになる。本来「共学」をめざしているから、枝村の子どもたちが本村の建てた学校に就学したことは当然のことである。しかし、本村が近世的排除観念から枝村の子どもたち

に対し「就学拒否」をし、枝村も差別的な学校に我が子を通わせることはできないと「就学拒否」をする。その結果、部落は実質的に「不就学」状態に陥っていったのである。その数は決して少なくはない。（図1の右下）

明治一〇年代、いわゆる「教育令期」になると、旧村落に林立して設置された小学校の統廃合が行われ、「分離教育」が進むことになる。（図1の左下）

兵庫県播磨地方の「分離教育」の事例を見ると、一八八四年（明治一七年）の学区改定まで独立維持が確認されている部落の学校もあるが、廃校になったり、隣接している部落外の学校に吸収合併されたりしている。また離れた部落の学校同士が合併した事例もあった。

加西郡の場合、「学区」が一五に再編され、一五学区に一五の学校（本校）が設立された。地理的な理由などで分校も一〇校設置されたが、そのうち六校は「部落学校」（「身分学校」）であった。ここの「部落学校」（「身分学校」）とは、単に部落に設立され存在した学校のことをいうのではなく、明治の初めに設立された部落の学校が、学制及び教育令時代の学校

統合の過程で次第に孤立させられ、行政的に再編された独立を維持した部落の学校のことである。

「分離教育」が部落に学力的課題をもたらし、部落に対する差別観念を継続させたと捉える一方、たとえ経済的に苦しく、教育条件に格差があったとしても、分離された「部落学校」は子どもたちが安心して学べる居場所と子どもたちのニーズに合わせた教育を提供していたことを付け加えておきたい。

部落はやむを得ず「分離教育」に向かわざるをえなかったのである。その評価は学校制度や歴史の流れというマクロレベルと、教育を受ける当事者及びその保護者のミクロレベルの二つの視点で考察する必要がある。

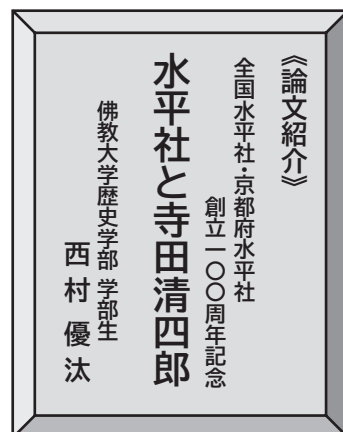
四類型で近代学校教育と部落の関係を考察してきたが、すべての類型に近世以来の部落差別が潜在していたことは間違いがない。

明治の学制から始まった近代学校教育はその定着過程に於いて、部落の主体的な「教育要求」と、近世以降の差別観念が招いた「就学拒否」とのジレンマを生み出した。そして部落は「統合教育」と「分離教育」のはざままで葛藤し続けたのである。

はじめに

「人の世に熱あれ 人間に光あれ」の全国水平社創立宣言が採択され、本年、二〇二二（令和四）年三月三日で一〇〇年を迎えた。この全国水平社創立一〇〇周年にあたり、改めて部落問題について考えられたり、水平社の歴史が研究されたりしている。その中で、四月二日には京都府水平社も創立一〇〇周年となる。ここでは京都府水平社初代執行委員長を務めた「寺田清四郎」（以下、清四郎とする）という人物について注目して見ていきたい。

清四郎は京都の田中部落（養正地区）を中心に活動を展開し、初期の水平社にも関わっていたが、これまであまり注目されてこなかった人物である。田中部落や水平社の研究に名前が出てくることは



あったが、研究の中心的な対象にされることはほぼなかった。

著者は清四郎の玄孫にあたることから、家に残る若干の資料（寺田家文書）^{〔注1〕}やこれまで刊行された文献、資料集などを基に、清四郎が田中部落や養正学区でどのような活動をしていたのかを調査してきた。二〇二〇（令和二）年六月には、「寺田清四郎 生誕一四〇周年記念」と題したリーフレットを作成し、清四郎が田中部落の指導者として活動してきたこと、時には養正学区の運営や小学校教育に尽力してきたことなどを明らかにした。

しかし、その一方で、水平社に関わっていたことは知っていたが、水平社での活動に関する資料が家には一点も残されていなかったことと、研究する機会もなかったことから、著者自身が水平社と清四郎との関係を調査することはできずにいた。

そこで本稿では、全国水平社・京都府水平社創立一〇〇周年という大きな節目に、水平社と清四郎との関係を、特に清四郎がどのようについて明らかにしたい。ただ、水平社に関わっていた時代の清四郎

に関する資料も少ないことから、新しい発見や検証ということは十分にできないが、清四郎が水平社にどのように関わっていたのかについて言及されている研究はあまりみられないため、改めてそれに焦点をあてて整理し、考察していく。



寺田清四郎 一九一〇年四月二七日撮影

一 寺田清四郎の生い立ち

まず清四郎の生い立ちを見ていきたい。

清四郎は一八八〇（明治一三）年六月二十九日に、父・寺田清次郎、母・りかの四男として生まれた。寺田家文書によれば「奈良県添上郡辰市村字杏」が出生地となっている^{〔注2〕}。奈良県の出身であることや辰市村にかつて親戚がいたことは伝え聞いており、間違いないことだろう。また戸籍による

と、一八八八（明治二一）年の時点で、京都の「柳原町字小稲荷」（当時は愛宕郡柳原荘、後の崇仁地区）に住んでいたようだが、いつ頃、柳原町に移住してきたのかは不明であり、柳原町に住んでいたということは伝え聞いていない。

奈良や柳原町でどのような暮らしをしていたのか、また寺田家がどのような家であったのかは全くわかっていない。一つわかっていることは、清四郎の父の代まで、長男は代々「清次郎」を襲名しているということである。今でも家業によって名前を代々襲名している家があるが、寺田家も何らかの商売をしていたのか、家業の関係で「清次郎」を襲名することになったのではないかと推測される。ただ父の代を最後に襲名が途絶えていることから、柳原町に移住した時点では代々の家業はして

いなかったのかも知れない。また清四郎は読み書きができ、尋常小学校を卒業したことはわかっているが、どこの小学校を卒業したのかは、わかっていない。ただ一八八八（明治二一）年、清四郎が八歳の時点で柳原町に住んでいたことから、柳原小学校（後の

崇仁小学校）を卒業した可能性が極めて高いと考えている。小学校卒業後、二六歳までの十数年間、清四郎がどのように暮らしていたのかは、全くわからない。

次に清四郎の様子がわかるのが、一九〇六（明治三九）年のことである。清四郎はこの年の九月に父・清次郎から分家して、「愛宕郡田中村小字西河原」（今の左京区田中、養正地区）へ移り住んだ。分家して移住した先がなぜ田中部落であったのか、どういう事情で移住したのかはよくわからないが、この田中部落への移住をきっかけに清四郎はさまざまな活動を展開していくことになる。

活動の内容については、次に述べるが、私的なことでは、妻との間に長男が生まれ（子どもは一人）、自宅で質屋、雑貨屋、煙草屋を営んでいた。おそらく一九一〇（明治四三）年頃から商売を始めたのではないかと思われ、商売は亡くなるまで継続している。

二 田中部落に移住してからのこと （部落改善運動へ）

まず清四郎が移住してきた一九〇六（明治三九）年頃の田中部落

について少し見ていこう。

田中部落では、一八八七（明治二〇）年頃から「夜学校」の開設を目指した取組が続けられていたが、一九〇〇（明治三三）年頃、それがさらに広がりを見せるようになる。当時の田中部落は不就学の子どもや青年が多く、彼らの教育を保障するために夜学校の開設が進められていた。一九〇〇（明治三三）年、田中部落の有力者である浅井清三郎（注³）が中心となり、教育無尽頼母子講（注⁴）が組織された。頼母子講の利潤によって夜学校の運営資金を確保し、翌年、夜学校が開設されたが、指導者に恵まれなかったり、子どもたちの出席状況が悪かったりと、この時には夜学校として十分に機能しなかった。

夜学校が本格化したのは、一九〇六（明治三九）年、田中尋常小学校（現京都市立養正小学校）に上田静一（注⁵）が赴任し、彼が教員として関わるようになってからである。一九〇九（明治四二）年には校舍が建設され、「田中親友夜学校」と命名されるなど、上田の指導によって夜学校もうまく機能し、規模も大きくなっていった。これを契機に田中部落に新たな動

きが起こる。それが愛宕郡長の指導によって田中部落で初めての部落改善団体として「自彊会」（注⁶）が発足したことで、上田静一が中心となって「青年会」（注⁷）が組織されたことである。

自彊会は、部落改善団体である一方で、自治的機能をもった田中部落の中核的な組織として事業を行い、青年会も同じように地区内で影響力を持つようになっていった。つまり、夜学校の開設を大きな契機として、田中部落で部落改善運動が始まったのである。

こうした時代に、清四郎は田中部落へ移住してきたのである。そして、移住してわずか二年後の一九〇八（明治四一）年一二月に愛宕郡長から自彊会の創立委員を委嘱され、創立委員になった。これが確認できる清四郎の活動のスタートである。清四郎が田中部落に來てから二年でこのような組織の創立委員になっているが、何かきっかけがあったのか、よくわからない。当時、二八歳で精力的に活動しやすい年齢でもあり、その後田中部落のさまざまな活動に関わっていくことから、当初から清四郎は、このような活動に意欲的、積極的であったのかも知れない。

い。また、その時代、部落内で識字があり、教養のある人は地域の識者とされたように、清四郎もそういうことから委員を委嘱され、関わるようになったのではないだろうか。

自彊会に参画してから、田中親友夜学校の運営に関わったり、青年会の幹部になったりと、田中部落でいろいろな事業に関わるようになり、活動を広げていく。部落改善運動が始まったばかりの田中部落で、さまざまな事業が取り組まれ、地区の中核的な組織となっていた夜学校、自彊会、青年会に清四郎は強く関わっていったのである。

こうした中で、一九一二（明治四五）年に、田中部落の指導者であった浅井清三郎が亡くなり、これをきっかけに田中部落にとって大きな出来事が起こった。浅井の手腕によって維持されていた頼母子講は、夜学校の他にも自彊会や寺、湯屋（共同浴場のこと）などを成り立たせていたが、彼の死によって、講を継続することが厳しくなった。加えて講員による不正事件も起こるなど、講が破綻寸前になり、田中部落全体に影響を及ぼすことになったのである。田中

部落には、いくつもの頼母子講があったが、そのほとんどが立ち行かなくなり、当時の田中部落で影響力を持っていた自彊会も機能しなくなるほど大きな打撃であった。

この事態に、浅井清三郎の遺族や上田静一が問題解決に動き出し、彼らは、清四郎と柳原町の柳原銀行頭取だった明石民蔵（注⁸）を頼って、この事態を収めようとした。この四人は常に連絡を取り合いながら解決に向けて尽力し、浅井家、明石、田中部落の有力者四名が私財を投じて講の整理にあたった。清四郎は田中村など行政や田中小と交渉したり、夜学校関係者と頻繁に協議したりするなど、地区の調整役として尽力し、問題は解決をみた（注⁹）。これをきっかけに清四郎は田中部落の中で重要人物の一人として、存在感を増していったのである。これが一九一五（大正四）年のことである。

次に一九一九（大正八）年一二月になると、機能しなくなった自彊会に代わる部落改善団体として「田中大正会」（注¹⁰）が上京区長の指導によって結成された。会長は川端警察署長が就任し、副会長には清四郎が就任した。結成当初

は、会長には地元の警察署長が地区への指導を兼ねて就くことになっていたため、行政や警察の権力に影響を受ける組織であった。数年後には会長以下すべてが地元の有力者で構成されるようになるが、行政との繋がりはそのまま継続された。結成時は、警察署長をトップとした組織であったが、実質的な地区の指導者は副会長となり、清四郎が田中部落の指導者となったことが指摘できよう。

田中大正会の副会長となった清四郎は、部落改善運動を熱心に進める一方で、一九一八（大正七）年から一九二六（大正一五）年まで養正学区会議員を務めるなど、養正学区の要職にも就いて、部落改善運動のみならず、学区の運営や小学校教育の振興など地域に根付いた活動も展開していった。

三 全国水平社との関わり

田中部落を拠点として部落改善運動に尽力していた清四郎だが、一九二二（大正一一）年三月三日に「全国水平社」が創立すると、水平運動にも関わるようになる。管見の限りでは、清四郎がどのように水平社に参画したのかについて

て言及された先行研究はあまりないため、そのあたりを整理して、見ていこう。

水平社創立前の動きの中で、清四郎の名が確認できるのが、『証言・全国水平社』^{〔注11〕}に記載されている水平社の創立者の一人である阪本清一郎の証言と、水平運動家であった木村京太郎が記した『水平社運動の思い出 上 悔なき青春』^{〔注12〕}と『水平社運動の思い出 下 苦悩の半生』^{〔注13〕}の中の証言である。

次に挙げるが、両者とも全国水平社の創立に至るまでの動きについて、南梅吉に関する証言をしている中に出てきているものである。木村の証言二つは、どちらも同じことを述べているが少し異なる書き方をしているので、二つ紹介しよう。

【資料1】 福田雅子『証言・全国水平社』

阪本

（前段は要約するが、「松井庄五郎宅で南梅吉と会い、その後、京都の南宅へ行って水平社創立に向けて協力を要請した」）

それから、「京都にはどんな人がおる？」と聞いたら、桜田規矩

三とか寺田四郎とか二、三人の名がでた、みんな青年団の団長ですわ。これやったら、いけるのではないかと思いました。次に西光君が平安中学にいた関係で京都のことを知っているからと、また行って話をしたらいいです。それで少し乗り気になってきたというので京都に力を入れよう、ということになり、たびたび僕らが行ったわけなんです。そこで、京都で大会を開くにあたって相談にのってくれ、ということになったんです。（八一〜八三頁 原文ママ）

【資料2】 木村京太郎『水平社運動の思い出 上』

大正十年の秋頃、奈良市の松井庄五郎氏宅で、たまたま来合わせた奈良県柏原の阪本清一郎と会い、同氏から、従来の部落改善事業や、同情融和の運動では部落は解放されない、部落民が自覚して自らの力で解放をかちとらねばならんことを話され、いま、そうした部落民の組織として「水平社」をつくる準備をしているから協力してほしいとの相談をうけた。南さんは、この阪本さんの言葉に共鳴し協力を約束して、京都へ帰ってから田中部落の寺田清四郎氏や、

柳原部落の桜田規矩三氏などと話し合って、京都でも水平社をつくる準備をすすめた。（九六頁）

【資料3】 木村京太郎『水平社運動の思い出 下』

大正一〇年十一月頃、奈良市の松井方で阪本に会い、自主的な水平運動を起こすについての協力を求められ、これに参加した。（中略）その後東七条の桜田規矩三、田中の寺田清四郎、埼玉県出身の近藤光（惣右衛門）などを紹介して水平運動に参加させた。（二五一頁）

この二人の証言によると、南梅吉が奈良県の松井庄五郎を訪問した際に、阪本清一郎と出会い、その後、南は阪本から水平社創立への協力を要請され、それを受けて青年団活動でつながりのあった崇仁の桜田規矩三と田中の寺田清四郎に呼びかけ、この二人を奈良のメンバーに紹介して、水平運動に参加させた、ということになっている。

ただ、この二人の証言の他に、水平社創立に関する当時の新聞などの報道や資料を見ても、清四郎の名は出てこないし、創立大会の

当日に撮影されたという「全国水平社創立発起者集合写真」(注14)にも写っていない。つまり、現時点では、清四郎が全国水平社創立大会や創立までの準備に関わった形跡は見られず、南梅吉から水平社創立への参加を呼びかけられたものの、創立大会を含めそれまでの準備にも、関わっていないかった可能性が高いといえるだろう。

ここで話は少しそれるが、水平社創立者の各人と清四郎との接点について、情報を整理しておく。

まず南梅吉との接点である。『水平社幹部調』(注15)を見ると、清四郎の欄に「南梅吉ト親交アリ水平運動ニ共鳴スル」と記録されている。また阪本や木村の証言からも南梅吉と清四郎は、水平社創立以前から青年団活動を通じて面識があったことがわかる。さらに互いに水平社を離れた後も、南梅吉が日本水平社を創立した時には顧問として名を連ねたり、共に帝国同仁会の創立に関わったり、立憲解放党の結成を目指したりと、繋がりはあったようである。初期の水平社メンバーの中では年齢も近かったことから、一番親しかったのだろう(南梅吉は一八七七年生まれ)。

次に桜田規矩三との接点である。清四郎は幼少期から二六歳まで柳原町字小稲荷で暮らしていたが、桜田は一八九六(明治二九)年に柳原町八条上で生まれ、水平社創立当時は、高瀬七条下ル材木町にいたという。つまり両者は近所に暮らしていたのであり、桜田を小さい時から知っていた可能性はあるだろう。

最後に奈良県の西光万吉らとの接点である。清四郎の出身地は奈良県添上郡辰市村と伝わるが、『水平社幹部調』には本籍が「奈良県南葛城郡檀原村字北方」(注16)と記録されている。この地は西光や阪本らの出身地で、現在、水平社博物館のある地である。この記録が正確なのかは、はっきりしない。ただ本籍以外の記録はほぼ正確であるため、本籍の記録を全く否定することもできない。仮に正しいとすれば、時代的に本人同士の面識はなかったとしても、西光や阪本らとの繋がりがあった可能性も少なからずあるだろう。ただ阪本の証言からすれば、南から紹介されるまで清四郎のことは知らなかったようなことが読み取れるため、その可能性は低いかも知れない。

これらの接点から全国水平社創立と清四郎との関わりを見ることができないし、不確かな情報も含まれているが、各人の情報を整理していけば、このようなことが浮かび上がってくるということは指摘しておく。

また時代は異なるが、清四郎の没後、松本治一郎が寺田宅を訪れたという逸話も伝え聞いている。関係性が強かったのだろうか。

四 京都府水平社初代執行委員長 就任

水平社に関する資料の中で、清四郎の名前が初めて確認できるのが、全国水平社創立大会の一ヵ月後の四月二日に創立した「田中水平社・京都府水平社」の創立大会からである。この京都府水平社の創立大会のことは各新聞社が報道している他、いくつかの資料に見ることができる。次にそれぞれの資料を挙げて見ていこう。

【資料4】『日出新聞』一九二二年四月四日 朝刊

田中の水平社

二日午後七時田中町託児所に於て

水平社演説会は開かれたり全国よりの来会総数五百餘人先ず田中町松浦清重氏開会の辞を述べ次に田中町和田信一氏、寺田清四郎氏、奈良県代表西島萬吉、米田富一、駒井喜作三氏、埼玉県代表近藤光氏、大阪代表中西千代子、岡山県代表岡部芳子、奈良県山田孝三郎氏交々立つて深刻なる體驗談あり各自一致團結して最高の識者となり最高の生活者とならんことを申合せ猶田中町寺田清四郎氏を京都水平社執行委員に擧げ十時和田寅太郎氏の閉会の辞に解散したり(原文ママ)

【資料5】『朝日新聞京都版』一九二二年四月四日 朝刊

(前略)二日午後七時から京都市田中町託児所で創立總會を開いた老若男女の参会者無慮五百余、会場を溢れて廊下の窓からも覗く盛況裡に同町青年松浦清重君の開会の辞に次いで田中町代表和田信一、寺田精四郎、奈良県代表西光姜吉、米田富一、駒井喜作、埼玉県代表近藤光等の諸氏が惨虐な歴史と少年時代から受けて来た深刻な體驗とを押し切れない胸の底からの叫びを揚げ「我等は現代を呪咀ふ、それは正当なことだ」と狂

ふが如く舌端鋭く火を吐いた。
(中略) 京都水平社の綱領を満場一致で可決、同執行委員長に田中町寺田清四郎氏を満場拍手裡に推薦し、最後に田中町代表和田寅太郎君の閉会の辞があつて「水平社万歳」声裡に散会した(原文ママ)

【資料6】『水平』第一号(注17)
各府県水平社創立大会 京都府水平社創立大会

(前略) 定刻に至るや松浦清重君、開会の辞を兼て経過報告に及ぶ。君は戸別訪問より宣伝、大会までの粒々たる辛苦を具さに述ぶるや満場寂として声なく、只だ只だ感激するのみであつた。聴て急霰の如き拍手と共に降壇した。浅田善之助君は全国水平社共通の綱領、宣言を朗読するや満場拍手喝采を以て迎へた。続いて委員の選挙に移り、田中町寺田清四郎氏(四十五)当選寺田氏の就任挨拶あり。次いで府下各郡水平社同人の代表演説に入る。(後略)(五二頁 原文ママ)

この『日出新聞』、『朝日新聞京都版』の記事、『水平』第一号によると、清四郎は京都府水平社創立

大会で、差別体験などを演説し、その後、選挙によって初代の執行委員長に選出され、就任の挨拶をしたことがわかる。ちなみに『水平』に書かれた年齢は四五歳となっているが、満年齢では四一歳である。
次に一九二二年七月調の『水平社状況一斑』(京都府警察部)(注18)という資料を挙げる。

【資料7】大正十一年七月調『水平社状況一斑』京都府警察部
五、水平運動ノ反響(一) 京都府下ノ状況

(前略) 京都市部落民ハ拳テ水平社ニ反対ノ態度ヲ示スニ至レリ。茲ニ於テ水平社幹部ハ事ノ意外ニ失望セシガ就中南ハ京都在住ノ関係上一層之ヲ遺憾トシ自カラ各部落有力者ヲ歴訪シテ誤解ヲ説キ熱心賛同ヲ求メシ結果漸クニシテ田中部落有力者寺田清四郎ヲ引入レ四月二日全町(戸数四二一 人口二二二二)ニ演説会ヲ開キテ約二十名ノ同志ヲ得タルヨリ寺田ヲ京都水平社委員ニ推薦(後略)(原文ママ)

この資料によると、水平社が創立したもの、京都市内の部落の

人々は、水平運動に対して反対の態度を示しているものが多いので、全国水平社の委員長で、京都市の千本部落に住んでいた南梅吉が水平運動への理解を得るために市内各部落の有力者を訪ねたところ、田中部落の寺田清四郎を水平運動に引き入れ、京都府水平社が創立した、ということがわかる。

最後に田中部落の出身で、戦後の部落解放運動を率いた運動家である朝田善之助の証言を見る。彼と清四郎の間柄、関係性については伝え聞いておらず、詳しくはわからないが、年齢的には清四郎が一八八〇(明治一三)年生まれ、朝田が一九〇二(明治三五)年生まれで、二二歳の年齢差があるということを紹介しておこう。朝田の著書『新版 差別と闘いつづけて』(注19)に記された証言を挙げる。

【資料8】朝田善之助『新版 差別と闘いつづけて』

創立大会でものごく感激したから、西田中にも水平社をつくろうというので、一ヵ月ほどかかって全国で最初の支部を作った。(中略) このとき田中水平社の創立とあわせて、京都府水平社も結成し

ようという動議が東七条の桜田規矩三から出て、寺田清四郎の名が委員長にあげられた。寺田は奈良の出身で、アホダラ経の流しをやっている、いつとはなしに田中に住みついたという男だったが、かれの人柄なら反対派の一部もついてくるだろうと、集会に出てもないのに、たのんで引きうけてもらった。(二五頁)

この朝田の証言を見るが、いくつか気になる部分を先に整理する。

まず「アホダラ経の流しをやっている」という部分だが、そのようなことをしていたとは伝え聞いていない。「アホダラ経」というのは、「江戸中期、乞食坊主が唱えた時事諷刺の滑稽な俗謡」(広辞苑)のことで、江戸中期から大正期までよくみられたものである。言わば「風刺画」の謡バージョンである。この流しをしていたというが、なんともわからない。ただ清四郎は、歌舞伎や浄瑠璃、三味線や都々逸などを好んでいたことは伝え聞いており、自身が謡をしていたのかは不明だが、そういう芸能や演芸に興味を持っていたようである。

次に「いつとはなしに田中に住みついたという男だった」という部分である。「住みついた」という表現が少し気になったのだが、朝田のように田中で生まれ育った地の人からすれば、奈良の出身で「よそ者」だった清四郎に対して、このような見方をすることは不思議ではない。特に明治・大正時代となれば部落のコミュニティは狭く強かったと考えられ、余計にそういう見方になったのだろう。

この朝田の証言で注目したいところが、「かれの人柄なら反対派の一部もついてくるだろうと、集会に出てもないのに、たのんで引きうけてもらった」という部分である。この「集会」とは、おそらく田中水平社・京都府水平社の創立準備にかかる集会のこと、「反対派」というのは、田中大正会のことだと思われるが、朝田は、京都府水平社の創立の準備を進めている中で、清四郎の人柄を踏まえ、水平社への参画を依頼した、としている。この証言から、清四郎は京都府水平社の創立準備にはあまり関わっておらず、水平運動に積極的な態度ではなかったが、説得されて府水平社委員長になった、

ということが読み取れるのではないだろうか。

またこの証言に、近現代部落史研究者の朝治武氏は、「京都府水平社も結成されて寺田清四郎が委員長に就任します。寺田清四郎は有力者なので、朝田から言わせると、こいつを据えといた、と自分が委員長にさせたかのような書き方をしています。私は、村の大正会の副会長をやって朝田より年長者で人望があったからだと思っています。」と指摘している(注20)。

五 小括

ここで清四郎がどのように水平社に関わっていったのかについて、結論と重なる部分もあるが、先に少しまとめておきたい。

阪本清一郎、木村京太郎、朝田善之助の証言に加え、水平社に関連する当時の新聞記事や雑誌、記録から清四郎に関わる部分を挙げてきたが、それを踏まえて、考察すると次のようなことが指摘できるのではないだろうか。

第一に、清四郎は全国水平社の創立を前に、親交のあった南梅吉から参加を呼びかけられたが、当初は水平運動に前向きな姿勢では

なく、少し距離を置いて、参加しなかった。

第二に、当初、水平運動に積極的ではなかった理由は、水平社とは性格の異なる部落改善団体「田中大正会」の副会長という指導者としての立場を考慮しての判断をしたからだではないか。

第三に、清四郎は南梅吉や田中部落の水平運動の賛同者から説得され、田中水平社・京都府水平社の創立から水平運動に参画し、京都府水平社初代執行委員長に就任した。

このようなことが、これらの資料から考察することができているのではないだろうか。第一、第三については、この可能性が高いと考えている。

第二については、当時の田中大正会(部落改善運動)と水平社との関係について見ていく必要がある。そもそも、水平社は部落改善運動や融和運動に否定的な立場を示して創立し、それらに対立的な立場であったとされ、朝田善之助は、京都府水平社創立大会を田中大正会の青年らが妨害してきたという旨の証言もしている(注21)。実際に一九三二(昭和七)年四月に田中大正会は、水平運動に反対し

て「天誅会」という組織を作って対抗し、田中水平社もこれに対抗して、対立が激しくなったという記録も残っている(注22)。

しかし、朝治氏は水平社創立期の田中部落について、「田中の場合、改善運動から水平社は生まれた。改善運動を継承して水平社が出来た。」「田中水平社は改善運動の役割をもちながら運動を進めていました」と指摘し、さらには清四郎や青年会会長が府水平社創立大会で演説していることから、「寺田清四郎は青年会の副会長で改善団体の大正会の副会長です。ですので、大正会全体が反対したというわけではないと思います」とも指摘している(注23)。

つまり、田中大正会の指導者的立場であった清四郎は、全国水平社創立への参加を呼びかけられたものの、部落改善運動に否定的な立場を取って創立しようとする水平社に自ら参加することには、前向きになれず、さらには田中大正会内部や田中部落内が水平社賛成派と反対派に分かれ、水平社側にも田中大正会を敵対視する人がいた中で、組織の長として、水平社の創立に関わることを固辞していた、もしくは、しばらく様子を見

て慎重になっていたのではないだろうか。したがって、第二のような考察をした。

ここで少し余談になるが、清四郎が立場などを気にする人物であったことを示すエピソードを紹介しよう。清四郎は一九四三（昭和一八）年五月二日に亡くなっているが、その時に遺言書を残していたようで、そこには死後の様々なことが記され、自身の葬儀の段取りについても書かれていたと伝え聞いている。それだけでなく葬儀の席順まで事細かに記されていたという。

当時の寺田家はあえて席順を記しておかなければならないほど親戚の数は多くなかったが、清四郎の長男は先に病死し、残されていたのは長男の妻と小学生の孫だった。そういった事情から、葬儀がスムーズに行えるようにとか、参列者に失礼がないようにとか、そういう思いから席順まで記したのではないかと考えている。このことから、立場などを気にする人物だったと想像でき、田中大正会の指導者という立場を気にして、南梅吉からの呼びかけにすぐには応じなかったのではないかと考えている。

六 寺田清四郎の運動

清四郎の運動について見ていこう。清四郎が関わった水平運動については、京都部落史研究所発行の『京都の部落史』（全一〇巻）に載っていること以外に、新たにわかったものはほぼなく、それを見れば概ね確認できるため、ここでは省略する（本稿年表参照）。

清四郎は京都府水平社執行委員長として、京都府内における差別事件への糾弾や府内での演説を中心に運動を行っている。清四郎は全国水平社の本部の幹部ではなかったため、あくまで京都府水平社執行委員長として活動し、中央本部にはあまり顔を出していない。

ただ、全国水平社第二回大会では、南梅吉が議長、清四郎と大阪の島田忠三郎が副議長を務めて進行したり、第三回大会の会計報告書に監査役として名を連ねたり、第四回大会に向けて、府県委員長会議に出席し、松本治一郎らと共に準備委員を務めたりと、全国大会に関わることはあったようである。また第四回大会前の委員長会議に出席した際は、水平運動機関新聞（水平新聞）の再興について

協議され、清四郎がその主任に選定されている。この時、清四郎は水平新聞再興のために三百円を投資している（注24）。

清四郎が水平社に関わったのは、約四年間であった。南梅吉からの呼びかけを受けて参画したが、南梅吉がスパイ事件（注25）をきっかけに、一九二五（大正一四）年五月五日に中央執行委員長を辞任すると、清四郎や桜田規矩三も水平社から離れることになった。

清四郎が具体的にいつ頃、離れたのかは、はっきりしないが、同年五月八日の『朝日新聞京都版』には、府水平社委員長を辞任することになり、後任者の選定が進められている、と報じられている。その一方で、六月二日の府委員会では、引き続き委員長に推薦されている（注26）。

その後、一九二六（大正一五）年五月一日に開かれた府水平社拡大執行委員会の中で、府本部を田中西河原町から東七条西之町に移転させることが決まり、委員長に千本部落の丹羽増次郎が選出（注27）されたことから、この時点で正式に府委員長が交代したのだろう。

一九二六（大正一五）年の府庁

文書（注28）には「南梅吉が前叙の如く第四回全国水平社大会直前に委員長を辞任せると前後して、（中略）更に寺田清四郎、桜田規矩三の両幹部が隠退するに及び、（中略）盛大なりし運動も漸次下火となりたる観あり」と記録されている。

また『京都の部落史』の中で確認できる清四郎と水平社との最後の関わりは、一九二五（大正一四）年六月一日の「田中水平社青年連盟創立大会」で演説したところである。それ以降、水平社に関する資料に清四郎の名が見られなくなることから、一九二六（大正一五）年五月より前に、すでに水平社からは離れていたのかも知れない。

最後に清四郎の「運動」の特徴について見ていこう。水平社創立後の各部落の状況として、部落改善運動支持者と水平運動支持者に分かれることが多く、時には組織的に対立することもあったということが一般的に知られている。しかし、清四郎の場合、府水平社執行委員長に就任してからも、かねてからの田中大正会の副会長としての活動を継続しながら水平運動も進めた。さらに、田中大正会の

部落改善運動と京都府水平社の水平運動を同時並行で行っただけでなく、どちらの組織でも指導者という立場で運動したのである。このことが清四郎の「運動」の大きな特徴であると言えるだろう。

府水平社執行委員長を務めていた一九二五（大正一四）年一月の時点で、清四郎は田中大正会の会長も務めていたことが確認できている（注29）。また寺田家文書による

と、水平社創立前の一九二二（大正一一）年一月には田中大正会副会長として、一九二五（大正一四）年一月には田中大正会会長として、その功労に対する感謝状を受けていることがわかる。つまり、府水平社執行委員長を務めていた一九二二（大正一一）年から一九二五（大正一四）年の期間に田中大正会会長・副会長として部落改善運動にも尽力していたことが裏付けられるのである。

清四郎が田中大正会の活動と京都府水平社の活動と、どちらにどれだけの重きを置いていたのかはわからないが、どちらの資料にも名前が出ており、指導者を務めているため、両立しながらうまく運動していたのだろう。

水平社を離れた後、一九二六

（大正一五）年五月の時点でも田中大正会副会長を務めていることが確認できる（注30）。水平社に参画した後も田中大正会との関係は継続したままであったために、水平社を離れてからも、田中部落や養正学区の各種団体の要職も歴任し、地域に根付いた活動を進めることができたのである。

おわりに

以上、「水平社」と「寺田清四郎」との関わりがわかる資料を示し、整理してきた。一部考察もしたが、再度まとめたい。

寺田清四郎は、一九〇八（明治四一）年以来、田中部落における部落改善運動や青年団活動に取り組み、地区の指導者として活動を展開した。そうした中で、青年団活動を通じて親交のあった南梅吉から、全国水平社創立への参加を呼びかけられた。しかし、水平社と性格の異なる「田中大正会」の指導者としての立場を考慮しての判断をしたのか、清四郎が水平社の創立準備の段階や創立大会に関わった形跡は確認できない。

その後、南梅吉らの説得によって京都府水平社の創立から水平運

動に参画し、京都府水平社の初代執行委員長に就任した。就任後は、府内で起こった差別事件の糾弾、市内や府下の部落で演説活動を行うなど、初期の水平運動を南梅吉や桜田規矩三らと共に支えた。だが南梅吉が水平社を去ると、ほぼ同時期に桜田規矩三と共に水平社を離れ、清四郎は田中部落や養正学区での活動に専念していった。

また清四郎が行った活動を追っていくと、部落改善運動と水平運動が対立していた時代に、清四郎は、この二つの運動を同時並行で進めていたことがわかった。清四郎は、京都府水平社執行委員長に就任した後も、田中大正会の会長や副会長にも就き、かねてからの田中大正会の活動を継続しながら、水平運動に関わったのである。水平社での活動は四年間で、結果的には水平社から離れたが、二つの組織で指導者として活躍した。さらには養正学区会議員も同時期に務めており、養正学区内でのさまざまな要職も歴任するなど、養正学区での活動も目立っている。

つまり、清四郎の運動の特徴は、水平運動に重きを置いた運動

をしたというよりは、部落改善運動と両立したものだだったのである。部落の発展を見た時に、部落改善運動が地区内にもたらした影響も大きいことを理解していた清四郎は、個人的には、部落改善運動と水平運動を同時に行い、両立させることが地区にとっても、部落問題の解決にとっても、大切であると考えていたのかも知れない。

水平社を離れた後も、それまでの継続的な活動によって、田中部落や養正学区での影響力を持ち続け、活発に活動していった。初期の水平社で活躍したメンバーのうち、その多くは地元の改善団体の中心メンバーであったが、水平社に転向して運動を進め、水平社を離れた後は、活動が低迷したり、地元を去ったりした人物が多い中で、清四郎はその生涯を閉じるまで地元で暮らし、地域に根付いた活動に尽力し続けたのである。

清四郎が亡くなった際には、養正学区の申出により、教育功労者として百万遍知恩寺で「養正学区葬」が行われた。現在確認できる記録（注31）では、養正学区において軍事関係者や戦没者の学区葬は終戦まで多く行われているのに対

し、教育功労者として学区葬が行われたのは清四郎のみとなっている。それだけ地域のために貢献し、その活動が地域に認められたということだろう。

今回、全国水平社・京都府水平社創立一〇〇周年にあたり、水平社と寺田清四郎という人物との関わりについて改めて注目した。清四郎本人やその周辺の証言が残っているわけでもなく、数少ない断片的な資料を整理し、一部強引に繋げたところもあるが、こうして考察してみると、これまで述べてきたような可能性も十分に考えられるのではないだろうか。

玄孫という立場であるからこそ言及できた部分もあるが、できる限り客観性を保って述べようと努めた。しかし、それが十分でなかったこと、また清四郎の思想や行動について深く見ていくことができなかったこと、反省している。

全国水平社・京都府水平社創立一〇〇周年という節目に、少しでも情報を整理することができ、これを基に今後さらに研究を深めていきたいと思っている。

本研究を進めるにあたり、ツラッティ千本や柳原銀行記念資料

館の皆様をはじめ、親戚を含め多くの方々に協力、ご指導をいただきました。また本稿をまとめるにあたっては、大阪人権博物館館長の朝治武氏、京都部落問題研究資料センターの平野貴子氏にご指導いただきました。厚く御礼申し上げます。

【注】

- 1 著者宅に残る清四郎関係の資料は『わが家の華』と題された和綴じの冊子のみである。この資料の作成経緯は不明だが、一九〇八年から一九三八年までの期間に、清四郎が受けた感謝状や表彰状、委嘱状などが写されたものである。序文は一九三一年一月二日の日付で、親交のあった元京都市会議員・田中全三郎が書いている。水平社に関する記録は一切なく、部落改善運動や養正学区などの活動がわかる記録。
- 2 『わが家の華』による。出生当時は「奈良県添上郡杵村」が正しい。
- 3 一八八八年、田中部落に生まれ、田中村会議員や田中小学校学務委員など公職を歴任。田中部落で頼母子講を組織し、夜学校の教育活動に尽力。一九一二年死去。
- 4 互助的な金融組合。組合員が一定の掛金をなし、一定の期日に抽籤または入札によって所定の金額を順次に組合員に融通する組織。（広辞苑）
- 5 一八八四年、大阪府南河内郡に生まれ、一九〇六年三月、京都府師範学校を卒業し、田中尋常小学校に赴任。同年十一月から田中部落の夜学校に関わり、その後田中部落の改善事業にも尽力。一九一六年、田中小と親友夜学校を退職し、開拓団を組織して北海道へ移住。一九五三年死去。
- 6 一九〇九年一月に愛宕郡長の指導によって発足した部落改善団体。事業としては夜学校の拡張、地区住民の修養、下水の改良と道路の修繕、湯屋の経営などであった。自治組織としての役割も担っていた。しかし一九一二年以降、頼母子講の経営難の影響を受け機能しなくなった。
- 7 夜学校の創設をきっかけに、青年を統制するため、上田静一を中心に、一九〇八年に結成。一九〇九年には「醇厚青年会」に、その翌年には「醇成青年会」に改称。夜学校の支援が主な活動であったが、自置会が機能しなくなつてからは、その後を引き継いだ。
- 8 一八五六年、柳原荘内銭座跡村に生まれ、一八九三年、柳原町長に就任。柳原銀行の初代頭取。柳原町の部落改善運動の指導者として尽力。一九二〇年死去。
- 9 『田中親友夜学校日誌』大阪市立大学人権問題研究センター『資料集 上田静一と被差別部落明治・大正期を中心に（二〇〇九年）』に所収。明治四五年以降の記事から夜学校の運営資金に関する問題の解決に向けた清四郎の動きがわかる。
- 10 自置会に代わる部落改善団体として上京区長の指導により一九一九年一月に結成、翌年三月に発会式が開かれる。事業としては市設養正浴場の経営、衛生の設備、教育の奨励、風俗の矯正、勤儉心の滋養、知識の啓発など。自治機能も持ち田中部落内で影響力を持った。一九三八年に「養正厚生報国会」に集約された。
- 11 福田雅子『証言・全国水平社』（日本放送出版協会、一九八五年）
- 12 木村京太郎『水平社運動の思い出 上 悔なき青春』（部落問題研究所出版部、一九六八年）
- 13 木村京太郎『水平社運動の思い出 下 苦悩の半生』（部落問題研究所出版部、一九七三年）
- 14 水平社博物館所有・保管。創立大会開催日に京都市岡崎公会堂で撮影されたもの。平野小剣、米田富、南梅吉、駒井喜作、阪本清一郎、西光万吉、桜田規矩三が写る。
- 15 部落問題研究所所蔵。三好文庫。
- 16 正しくは「奈良県南葛城郡掖上村柏原北方」
- 17 一九二二年七月、水平出版部発行。『問題資料文献叢書』第三巻第一冊に所収。ちなみに『水平』第一号には清四郎が市内の運動家と連名で広告を載せており、発行された三千部のうち百部が清四郎に配分されている。
- 18 部落問題研究所編刊『水平運動史の研究』第二巻資料編上に所収。一五八頁。
- 19 朝田善之助『新版 差別と闘いつづけて』（朝日新聞社、一九七九年）
- 20 朝田武『田中部落・改善運動から水平運動へ―朝田善之助の視点から―』京都部落問題研究資料センター『二〇一一年度部落史連続講座講演録』（二〇一二年）二五頁。明治期から大正期の田中部落について詳しい。
- 21 前掲『新版差別と闘いつづけて』二頁。
- 22 天誅会は、一九三二年四月、田中大正会の青年らが水平社の運動に反対して組織。田中水平社も天誅会の「撲滅闘争週間」を設けて対抗している。『京都の部落史』第2巻近現代、三三二頁。
- 23 前掲『二〇一一年度部落史連続講座講演録』三四―三五頁。

24 前掲『水平運動史の研究』第二巻資料編上に所収。二二二頁。

25 一九二四年一〇月に発覚した「遠島スパイ事件」のこと。遠島哲男という警察のスパイだとされる人物と、南梅吉や平野小剣ら水平社の幹部が繋がっていたという疑惑が明らかになった事件。

26 『自由新聞』一九二五年七月一日。『京都の部落史』第8巻史料近代3、二二九頁。

27 『水平新聞』一九二六年六月三十日『京都の部落史』第10巻年表・索引、二八五頁。

28 府庁文書『知事事務引継演説書』（一九二六年一〇月）。『京都の部落史』第8巻史料近代3に所収、二二六～二二八頁。

29 京都部落問題研究資料センター所蔵の『市設浴場一件 京都市社会課』（写）によると、一九二五年一月に田中大正会会長として、京都市より経営を受託している市設養正浴場の業務に関する陳情書を京都市に提出している。

30 前掲『市設浴場一件 京都市社会課』（写）によると、一九二六年五月に田中大正会副会長として、養正浴場の「浴場増設願」を京都市に提出している。

31 京都市立養正小学校所蔵の学校沿革史やその他、沿革に関わる記録。

【参考文献】

■ 京都部落史研究所『京都の部落史』全一〇巻
■ 大阪市立大学人権問題研究センター『資料集 上田静一と被差別部落 明治・大正期を中心に』

■ 京都部落問題研究資料センター

『二〇一一年度部落史連続講座 講演録』

（朝治武「田中部落・改善運動から水平社へ―朝田善之助の視点から―」）

寺田清四郎 年表

- 1880（明治13）年 父・寺田清次郎、母・りかの四男として奈良県で生まれる（6月29日）
- 1906（明治39）年 父・清次郎より分家され、紀伊郡柳原町字小稲荷から愛宕郡田中村小字西河原（後の田中西河原町）に移住（9月）
- 1908（明治41）年 地域改善団体「自彊会」の創立委員となる（12月、これが田中での初期の活動）
- 1909（明治42）年 田中の醇成青年会幹事となる（9月、この頃より田中親友夜学校にも強く関わる）
- 1918（大正 7）年 田中村村長から功労を表彰される（3月）
上京第三十（養正）学区会議員に当選（9月、以後2期務めた）
養正学区衛生組合役員となる（12月、後に副幹事も務めた）
ほぼ同時期に公同組合役員となる（後に正副幹事、左京区学区聯合公同組合副幹事も務めた）
- 1919（大正 8）年 地域改善団体「田中大正会」結成。副会長に就任する（12月）
- 1920（大正 9）年 公同委員となる（7月、後の方面委員）
- 1921（大正10）年 養正地区内に「トラホーム第三治療所（診療所）」開設。（6月）
- 1922（大正11）年 全国水平社の創立に参加する（3月3日創立大会）
京都府水平社及び田中水平社創立。京都府水平社初代執行委員長となる（4月2日）
- 1925（大正14）年 京都府水平社執行委員長を辞任する
- 1926（大正15）年 京都府親和会協議員となる（4月大正12年の創立より関わっている）
内務省職業紹介事務局より社会事業精神を讃えられ表彰される（6月）
養正教育会創立発起人会評議員となる（11月）
- 1927（昭和 2）年 南梅吉に賛同して「日本水平社」結成に関わる（1月昭和17年解散）
神戸市社会課地方改善係より社会精神を讃えられ表彰される（1月）
養正学区功労者として表彰される（4月）1928（昭和3）年 下鴨自治協会養正支部幹事となる（8月）
- 1929（昭和 4）年 帝国同仁会創立にあたり評議員となる（7月）
- 1930（昭和 5）年 南梅吉らと立憲解放党の結成を計画する（11月）
- 1934（昭和 9）年 京都北部煙草小売人組合委員となる（3月、～昭和12年3月）
- 1938（昭和13）年 孝明天皇奉祀奉賛会委員となる（3月）
- 1941（昭和16）年 大正会や婦人会を解消し「養正厚生報国会」を結成（再編）。会長に就任する（1月）
- 1943（昭和18）年 死去。63歳（5月21日）
養正学区教育功労者として養正学区葬が百萬遍知恩寺にて行われる（5月25日）

◇春告鳥は地を這う 一戦後部落解放運動史の検証と再考23 最終回 水平社創立100年の地平からの「部落解放への展望」2 谷元昭信

◇水平線「簡単に奪われ、ないことにされる権利」中島京子

◇ヘイト・スピーチを受けない権利『底が抜けた差別社会で生きること』前田朗

◇じんけん切り抜き帳 (2022.6.10～7.10)

◇[本の紹介]

- ・『アイヌ通史 ―「蝦夷」から先住民族へ』(リチャード・シドル著) 紹介者 小川正人
- ・『在日朝鮮人を生きる ―〈祖国〉〈民族〉そして日本社会の眼差しの中で』(山本かほり著) 紹介者 川瀬俊治

◇じんけんSCHOLA オンライン講座紹介

部落解放新聞 376 (部落解放同盟全国連合会刊 2022.7.10) 200円

◇茨城県連第31回定期大会を開催

◇狭山事件と人権を考える茨城の会講演会を開催

◇全国水平社創立100周年記念茨城県民大会に200人結集

◇全国連荒本支部第42回定期大会を開催

◇池本秀美さん(荒本支部書記長)を追悼する

◇水平社創立100周年・全国連創立30周年にあたって

部落解放新聞 377 (部落解放同盟全国連合会刊 2022.8.10) 200円

◇7/17 第31回全国大会関連記事

◇示現舎・宮部龍彦への公開質問状5

部落史研究 7 (全国部落史研究会刊 2022.3) 2,000円

◇[特集1] オンライン講座 ラムザイヤー論文の問題点を検証する 一部落史研究の立場から―

- ・マーク・ラムザイヤーによる部落問題についての論文の問題点の検証―前近代の部落史に関する記述を中心に― 鳥山洋
- ・マーク・ラムザイヤーの部落問題への史的認識に対する批判 藤野豊

[資料] マーク・ラムザイヤー氏による部落問題についての論文への見解

◇[特集2] 追悼：秋定嘉和先生

- ・『奈良の部落史』を読み返す 井岡康時
- ・秋定嘉和先生の思い出 大串夏身
- ・秋定先生のお酒 廣岡浄進
- ・秋定嘉和、ありがとうございました 三原容子
- ・秋定嘉和先生の思い出 吉田文茂
- ・衡平運動史研究と秋定先生 渡辺俊雄
- ・近現代部落史研究と秋定先生 割石忠典

◇[論文] 書かれない歴史 ―『山口県史』の問題点 布引敏雄

◇[書評] 森本光誠『東大寺奴婢集団のサバイバル 慈悲につつまれて』矢野治世美

◇全国部落史研究会会員 著書・論文等目録 (2021.1～2022.3)

◇各地研究所(会)紀要などの紹介 (2021.1～2022.3) **部落史研究報告集 26** (Orang-Orang八幡浜部落史研究会刊 2022.7)

◇融和運動家 成川了恵 水本正人・西園寺千代・甲野正人・菊池正・後藤孝人・矢野俊治 共著

◇笹本元三郎は、いかにして経済的に困窮した「沖浦部落」を立て直したか 水本正人

◇紀州藩「文政一揆」について～「かわた」は一揆にどう関わったか～ 水本正人

◇[史料紹介]

1 現代語訳「安永3(1774)年の幕府の御触書」

2 現代語訳「安永7(1778)年の幕府の御触書」

水本正人

Rights 278 (鳥取市人権啓発情報センター刊 2022.7)

◇2022年度人権ととり講座講演会(8月27日)案内

◇「部落解放月間」7月10日～8月9日 (鳥取県 1970年に制定)

和歌山研究所通信 77 (和歌山人権研究所刊 2022.7)

◇「水平社宣言100年と朝田善之助」を考える 八木晃介

- ・差別する側にならないために勉強しつづける 松山浩幸

- ・霜との青年部を立て直したい 荒川実来

◇フツの校長、市長に直訴！ 久保敬

◇ヘイト・クライム被害者救済1—EUのモデル・ガイダンス 前田朗

◇リレーエッセイ 水平社100年に想う17「ユダヤ人と被差別部落」 鶴見太郎

◇差別禁止と被害救済を「共通のルール」に「すべての人の無差別平等の実現に関する法律案」の紹介と解説

◇偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 福岡安則 連載18 平成になっても「子ども

は産むな」と

◇春告鳥は地を這う一戦後部落解放運動史の検証と再考21 部落差別解消推進法の積極的活用と「誇りの戦略」 谷元昭信

部落解放 824（解放出版社刊 2022.7.25）1,000円＋税

◇部落解放文学賞 受賞作

- ・[識字部門]「ばあさんとボク」 川口泰弘
- ・[記録・表現部門]「私の半生記 二つの国に生きて」 中村慶子(劉芳)
- ・[詩部門]「ニワトリ」「ひとつの春」 中原賢治
- ・[戯曲部門]「硝子の檻の共犯者」 長谷川源太

◇佳作

- ・[識字部門]「夜間中学で希望をみつけた」 小田クニ子
- ・[評論部門]「侃侃諤諤『はだしのゲン』 高橋文義 ほか

部落解放 825（解放出版社刊 2022.8.10）600円＋税

◇[特集] ビジネスと人権 監修 佐藤暁子

- ・「ビジネスと人権」というまなざし 菅原絵美
- ・日本企業の「ビジネスと人権」の取り組み 氏家啓一
- ・「子どもの権利」とビジネス 甲斐田万智子

- ・「障害者の権利」とビジネス 伊藤芳浩

- ・「ビジネスと人権」指導原則は外国人労働者を救えるか 旗手明

◇「全国部落調査」復刻版裁判・控訴審勝利に向けて（上）鳥取ループ・宮部控訴理由書を批判する 片岡明幸

◇屋根裏ギャラリー「にんげん展」が目指したもの 河田かつのぶ

◇[報告] 美作騒擾150年追悼の集い

◇春告鳥は地を這う 一戦後部落解放運動史の検証と再考22 水平社創立100年の地平からの「部落解放への展望」1 谷元昭信

◇水平線「差別見抜く目、広く育てる ネット上の投稿削除に向けて」 阿久沢悦子

◇ヘイト・クライム被害者救済2—EUのモデル・ガイダンス 前田朗

◇じんけん切り抜き帳（2022.5.10～6.10）

部落解放 827（解放出版社刊 2022.9.10）600円＋税

◇[特集] 人権学習と総合学習

- ・座談会『子どもを主体にした探求学習の展開を一人権総合学習の現状と課題—』メンバー：高田和弘(司会)・園田雅春・佐久間敦史・大坪泰子

- ・『地域と連携した人権総合学習 一大阪府・池田市立ほそごう学園のとりくみ—』 奥田雄大

- ・『教育コミュニティづくりと総合的な学習 一福岡県田川市金川校区の取り組み』 川畑和久

◇[リレーエッセイ 水平社100年に想う18]『アイデンティティの交差性と水平社宣言』 石川結加

◇狭山事件 警察官の偽証と確定判決の崩壊 中北龍太郎

◇「全国部落調査」復刻版裁判・控訴審勝利に向けて（下）鳥取ループ・宮部控訴理由書を批判する 片岡明幸

◇偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載 第19回 消毒で“遺伝病”が“伝染病”になった 福岡安則

センター刊 2022.7.12)

◇[館長コラム] 同和問題啓発強調月間テーマ「いのちの尊厳と平等—わたしにできること」で考える
谷口研二

月刊 ヒューマンライツ 412 (部落解放・人権研究所刊 2022.7.10) 500円+税

◇特集 現代の『破戒』—部落出身を語ること

- ・私と部落 ～矜持をもって～
- ・何をもとめてカミングアウトするのか
- ・教育現場で感じる違和感
- ・ひとりじゃないから 早瀬尚子

◇第53回部落解放・人権夏期講座 (高野山夏期講座 2020) 案内

月刊 ヒューマンライツ 413 (部落解放・人権研究所刊 2022.8.10) 500円+税

◇[識字運動の担い手たちが語る 20]『識字は私の命、私の生きる糧(前編)』読み書き教室 岡山琴絵さん

◇[人権教育の実践の現場から 89]『そのままでええねん～自分を見つめ語り始めた子どもたち(後編)』宇都友美

◇[書評]『続 部落解放論の最前線—水平社 100 年をふまえた新たな展望』(解放出版社 2021 年) 新時代に向けた運動の再構築 戸田栄

◇[泰司と元樹の書きたいざんまい 9]「差別しない・支えない・なくす努力を学ぶということ 5」松村元樹

ひゅーまん らいと 437 (部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会刊 2022.7.1)

◇第35回人権啓発京都府集会開催

- ・記念講演「ともに生きる LGBTQ+～誰もが『自分らしく』いぎられる社会へ～」中松権さん
- ・トークセッション「女性たちのコロナ禍」周藤由美子さん 小泉浩子さん 新谷章恵さん

◇部落解放・人権政策確立要求山城地区実行委員会第38回総会 開催

◇部落解放・人権政策確立要求綾部地区実行委員会第38回総会 開催

◇部落解放・人権政策確立要求綾部地区実行委員会が国会議員・全国市長に 部落差別解消推進法の具体化と国内人権委員会創設に向けた取組を要請

ひゅーまん らいと 438 (部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会刊 2022.8.1)

◇6/20・22 部落解放京都地方共闘会議(解放共闘)京都労働局や京都府、経済団体に対し就職差別撤廃の要請行動実施

◇6/8・9 部落解放同盟第79回全国大会 西島藤彦中央執行委員長誕生

◇7/6 人にいちばん近いまちづくり福知山市実行委員会第38回大会開催

◇第69期第5回京都人権文化講座『見えにくい女性の貧困』(2022.1.14開催) 報告

◇6/13 2022 年度人権問題学習講座『働きやすく働きがいのある職場づくりめざして～STOP! ハラスメント～』開催

◇第71期京都人権文化講座案内〈問い合わせ〉部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会 TEL (075)415-1030

ひゅーまん らいと 439 (部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会刊 2022.9.1)

◇8/3 部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会第38回大会関連記事

- ・金秀煥「ウトロ祈念館について～差別と歴史問題を乗り越えた『小さな統一』の力～」と題した講演

◇京都部落問題研究資料センター主催『差別の歴史を考える連続講座』第1・2回の報告と紹介

◇「リベレーションフェスタ 2022」案内

◇第71期京都人権文化講座案内〈問い合わせ〉部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会 TEL (075)415-1030

部落解放 823 (解放出版社刊 2022.7.10) 600円+税

◇特集「部落問題と向き合う若者たち10」

- ・はじめに—「部落問題と向きあう若者たち 10」によせて 内田龍史

2.8.15) 147円

◇[岡山] 6/23「働くルールを確立し、就職保障と人権を守る岡山連絡会(岡山市人権連、高教組などで構成)」総会・学習会開催 自衛隊の高校生入隊勧誘問題に取り組む

◇映画『私のはなし 部落のはなし』寸評 植山光朗
月刊 地域と人権 459 (全国地域人権運動総連合刊 2022.7.5)

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史9 丹波正史

月刊 地域と人権 460 (全国地域人権運動総連合刊 2022.8.5)

◇第43回福岡県人権問題研究集会(2021年11月23日) 記念講演「世間・同調圧力」と私たちの人権 佐藤直樹

◇[資料]インターネット上の誹謗中傷をめぐる法的問題に関する有識者検討会 取りまとめ

◇[資料]「同和対策地域総合センター要覧」に記載された各センターの名称・所在地等の非公開情報該当性

◇[資料]「全国部落調査」復刻版出版事件の控訴審に勝利しよう(一部掲載)

◇[書籍紹介]

- ・「部落」は今どうなっているのか 一地域に住む人たちからの聞き取り丹波真理著/ 部落問題研究所刊/1,000円
- ・復刻水平社運動の思い出 木村京太郎著/ 部落問題研究所刊/2,200円

地域と人権 京都 864 (京都地域人権運動連合会/ 地域と人権 京都支局刊 2022.7.1) 150円

◇「弱者救済の分配政策を」浜矩子 同志社大学大学院教授に聞く

◇京都人権連 第9回執行委員会開催 各地の「まちづくり運動」について意見交換

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史 第5回 丹波正史

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政沿革51 川部昇

◇第43回京都革新懇定期総会開催

地域と人権 京都 866 (京都地域人権運動総連合/ 地域と人権 京都支局刊 2022.8.1) 150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政沿革53 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史第5回 丹波正史

地域と人権 京都 867 (京都地域人権運動総連合/ 地域と人権 京都支局刊 2022.8.15) 150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革54 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史第5回(前回の続き) 丹波正史

であい 724 (全国人権教育研究協議会刊 2022.7.25) 160円

◇全国人権教育研究協議会2022年度 研究課題(後編)

3 同和教育を基軸とする人権教育の創造を

4 人権確立をめざすまちづくり

5 第73回研究大会(奈良県)の成功に向けて

◇人権文化を拓くバラッド「1923年福田村の虐殺」に込めたねがい 中川五郎

◇全人教2022年度事業計画

・第73回全国人権・同和教育研究大会 11月26日(土)~27日(日)奈良市

・「豊かな人権教育の創造」実践交流会 8月4日(木)鳥 県出雲市 ほか

◇[本の紹介]「共に生きる教育」宣言(堀正嗣 著 解放出版社)

奈良人権部落解放研究所紀要 40 (奈良人権部落解放研究所刊 2022.3.31) 1,000円+税

◇大和国の初期真宗と穢寺成立の環境・試論(上) 吉田栄治郎

◇「中世非人論」再考 一中世被差別民は一括して非人身分でいいのかー 山村雅史

◇教祖とコレラの流行 一被差別民衆史の視点から「教祖伝」を読むー 池田士郎

ヒューマン・アルカディア 90 (福岡県人権啓発情報

人権と部落問題 962（部落問題研究所刊 2022.8.1） 660円

◇[連載]八鹿高校事件から半生世紀 第2章 生徒がつづる八鹿高校と高校生活 11 高校生活の思い出 三木美穂

◇[現地報告]人権施策の到達点と新たな課題への取り組み ―三重県松坂市― 久松倫生

◇[読後感想]木村京太郎著 復刻 水平社運動の思い出 ―全国水平社創立100周年記念― 平井雅希

人権なら 139（NPOなら人権情報センター刊 2022.7.1）

◇NPOなら人権情報センター通常総会 開催 第22期 事業計画を決定

◇天王寺夜間中学同窓会総会「天王寺夜間中学を残せ」

季刊 人権問題 408（兵庫人権問題研究所刊 2022.7.31） 1,000円

◇[特集1] 様々な視点で憲法を考えよう

◇[特集2] 教育をめぐる様々な動向

・全国水平社創立100周年 到達点と教育の課題を大阪から発 信柏木功

◇[特集3] 全国水平社創立100周年記念

・全国水平社創立100周年記念を迎えて 学びと成長の部落解放運動 西脇忠之

・兵庫の部落解放運動を振り返って3～地域人権運動と憲法～ 前田武

◇全国水平社創立100周年記念 国民融合東播大学習会案内

振興会通信 165（同和教育振興会刊 2022.7.25）

◇[御同朋の視座 30]「水平社から問われたこと」―本願寺教団100年の歩みの中で― 梯良彦

◇同朋運動史の窓71 左右田昌幸

人民新聞 1788（人民新聞社刊 2022.8.20） 200円

◇夜間中学生が思い込めた本を出版『天王寺・文の里夜間中学の存続を 生きる権利と学ぶ権利がすべてに優先する』出版記念会を取材 天王寺、文の里の両夜間中学統廃合反対運動の軌跡を振り返る かわすみかずみ

スティグマ 312（千葉県人権センター刊 2022.7.10） 500円

◇[連載] 差別とは何か、偏見とは何か 12 福岡安則

スティグマ 313（千葉県人権センター刊 2022.8.10） 500円

◇[連載] 差別とは何か、偏見とは何か 13 福岡安則

世界人権問題研究センター 研究紀要 27（世界人権問題研究センター刊 2022.6.20） 2,500円

◇論説「幕末京都の非人小屋『水車』の人々」 小林ひろみ

◇論説「国連人権条約における国家間通報―運用課題についての一考察―」 前田直子

全国隣保館連絡協議会情報誌 89（全国隣保館連絡協議会刊 2022.8.26） 500円

◇『笑顔が集う安らぎの場』福岡県飯塚市穂波人権啓発センター

◇『喜び悲しみを共に分かち合える地域づくりをめざして』和歌山県御坊市藺会館

◇『地域に根差し活気のある福祉館をめざして』静岡県浜松市江西会館

◇高知県隣保館連絡協議会の取り組み紹介

◇津山市大久保会館の紹介

地域と人権 1234（全国地域人権運動総連合刊 2022.7.15） 147円

◇[福岡] 福岡県人権連が福岡県が計画している「隣保館利用者部落差別体験調査」の中止を求める

◇[愛知] 第12回愛知人権連大会を開催

◇[岡山] ・岡山市人権連が岡山市に対し「今後における同和問題解決の基本方針」の廃止を求める

・高瀬菜穂子福岡県議会議員（日本共産党）が「隣保館利用者に対する『部落差別』実態調査について」の中止を求める

◇[本の紹介] 解放運動の担い手たち 戦前編 1 上田音市、朝田善之助、山田孝野次郎 ほか

地域と人権 1235（全国地域人権運動総連合刊 202

コリアNGOセンターが申し入れ 被害者への謝罪と再発防止を約束 ほか

狭山差別裁判 527（部落解放同盟中央本部 中央狭山闘争本部刊 2022.4.1）300円

◇[主張] 冤罪を教訓に再審法改正をすすめよう！ 裁判官もふくむ司法関係者の人権教育を求めよう！

◇[石川一雄さん、早智子さんの近況] 冤罪59年ー今度こそ再審開始を願ってー インタビュー 石川一雄さん・石川早智子さん

◇[弁護団報告] 憶測を重ねた検察官意見書を批判する！ 裁判所に全証拠の総合評価、再審開始を求める 中北龍太郎

◇冤罪事件の取材をとおして 里見繁

◇木谷明著『違法捜査と冤罪』を読んで 高橋定

狭山差別裁判 528（部落解放同盟中央本部 中央狭山闘争本部刊 2022.5.1）300円

◇[主張] 鹿児島地裁による大崎事件の再審棄却決定に抗議する！ 再審無罪実現までともに闘おう 再審法改正を実現しよう！

◇[石川一雄さん、早智子さんの近況] 不当逮捕から59年をむかえて インタビュー：石川一雄さん、石川早智子さん

◇[冤罪を訴え59年] 石川一雄さんのメッセージ(2022.5.23)

◇[各地のとりくみ] 石川さんの無実を市民に広げよう！ 東京高裁鑑定人尋問、再審開始を！

◇[連載] 刑事裁判の現風景 第74回 大崎事件第4次再審請求が棄却される菅野良司

狭山大運動 1（狭山事件の再審を実現する大運動刊 2022.7.10）100円

◇『狭山大運動』の発刊に当たって

◇狭山要請行動・東京高裁前行動 案内

◇狭山第2次意見広告への読者の声

狭山大運動 2（狭山事件の再審を実現する大運動刊 2022.8.10）100円

◇[寄稿] 7・10福岡意見広告集会報告 福岡「SAYAMA」上映実行委員会

◇[投稿] 第55回狭山街宣報告 福岡「SAYAMA」

上映実行委員会

人権と社会 クリップ・ライブラリー 417（NCL刊 2022.7.15）1,400円

◇同和対策事業 九州45事業継続（西日本新聞 九州7県、全233市町村に同和行政・人権啓発に関するアンケート結果）〈西日本新聞 2022.5.18〉

◇同和調査実施72自治体、実施予定20自治体、全体の6割が実施予定なし（西日本新聞 同アンケート）〈西日本新聞 2022.5.19〉

◇戸籍謄本・住民票の不正取得抑制のための「本人通知制度6割導入」（西日本新聞 同アンケート）〈西日本新聞 2022.5.20〉

◇ネットの差別投稿 監視2割（西日本新聞 同アンケート）〈西日本新聞 2022.5.21〉

◇狭山事件再審へヤマ場 11人分鑑定人尋問請求へ〈東京新聞 2022.5.25〉

人権と社会 クリップ・ライブラリー 418（NCL刊 2022.8.15）1,400円

◇[じんけん北から南から] 尼崎・クボタ健康被害発覚17年〈神戸新聞(夕刊)2022.6.24〉

◇あらゆる差別禁止 法律化求める動き〈朝日新聞 2022.7.5〉

◇選挙へイト再び 参議院選神奈川選挙区で

人権と部落問題 961（部落問題研究所刊 2022.7.1）660円

◇特集「気候変動と環境破壊に抗して」

・ノーベル賞受賞の真鍋淑郎さんが明らかにした地球温暖化の原理と激増する2種類の異常気象 増田善信

・地球資源を活かす気候変動対策 田浦健朗

・イタイイタイ病発生源対策50年史 畑明郎

◇論説 強制不妊手術に関する大阪高裁判決をめぐって 辻川圭乃

◇連載 八鹿高校事件から半世紀一第二章 生徒がつづる八鹿高校と高校生活 10 私と八鹿高校事件 田中直

◇動向 全国水平社創立100周年記念講演会を開催ー大阪からの報告ー

ユース 森口健司

◇[語る・かたる・エッセー]いじめに思う シーズ2
「中高生とともに差別と闘う『立入禁止』の向こう側」吉成タダシ

◇[部落史学び直し 問い直しのススメ16] 支配か排除か 社会の下か上か 外川正明

語る・かたる・トーク 330 (横浜国際人権センター刊 2022.8.20) 550円

◇豊かな心を育むために “親ガチャ”社会を変えるために 山藤太郎

◇国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランド T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース 「学年全体で語り合う部落問題学習がスタートするまで」森口健司

◇[語る・かたる・エッセー]いじめに思う シーズ2
「中高生とともに差別と闘う 阿波木偶箱まわし」吉成タダシ

◇[部落史学び直し 問い直しのススメ17] 社会科歴史学習として学ぶ 外川正明

カトリック部落差別人権委員会ニュース 199 (日本カトリック部落差別人権委員会事務局刊 2022.7.)

◇狭山事件の再審を求める市民集会 一発見万年筆はねつ造、鑑定人尋問を請求、部落差別が生んだえん罪一 広川二六

◇[書籍紹介]

- ・『講座 近現代日本の部落問題』全3巻朝治武・黒川みどり・内田龍史編/解放出版社/各巻6,000円+税
- ・『写真記録 部落解放運動史:全国水平社創立100年』部落解放同盟中央本部編/解放出版社/10,000円+税
- ・『全国水平社1922-1942 -差別と解放の苦悩』朝治武著/ちくま新書/940円+税
- ・『人間に光あれ 日本近代史のなかの水平社』藤野豊・黒川みどり著/六花出版/1,800円+税

きょうと府民だより 495 (京都府広報課刊 2022.7.1)

◇人権口コミ講座145「ヘイトスピーチを許さない

い社会を目指して」薬師寺公夫

GLOBE(グローブ) 110 (世界人権問題研究センター刊 2022.7)

◇ネット上での誹謗中傷対策 田中辰雄

◇関東大震災と岸田劉生 一水平社100年に寄せてー小林丈広

◇人権ゆかりの地「東寺」〈人権ポイント 1 散所法師との関わり2 京都の出入り口という立地条件と葬送地・四塚の存在〉 野地秀俊

◇[出版物・刊行物案内]

- ・京都人権歴史紀行
- ・人権問題研究叢書
- ・研究紀要 ほか

研究所通信 428 (部落解放・人権研究所刊 2022.7.1) 100円

◇西日本夏期講座 沖縄プレイベントと反差別のワンアクション 川口泰司

◇[報告] 第3回研究部門「識字・成人基礎教育研究会」ワークショップどうつくる?『識字・水平社100年宣言』

◇第43回人権尊重の風土づくりをめざす企業・法人のための「人権・同和問題企業啓発(オンライン)講座」(詳細は催し物欄)

◇世界人権宣言大阪連絡会議 第39回総会&記念講演 谷口真由美「『大阪のおばちゃん』が見た『おっちゃん社会』」

国際人権ひろば 165 (アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)刊 2022.9.1) 350円

◇水平社宣言100周年と水平社博物館のめざす役割 駒井忠之

コリアNGOセンターNews Letter 54 (コリアNGOセンター刊 2022.7.1) 100円

◇大阪コリアタウン多文化共生のまちづくり 在日コリアンの可視化されるコミュニティへ 郭辰雄

◇ウトロ平和祈念館が開館 在日コリアンの歴史を刻むとともに未来に向けた出会いと交流の拠点に

◇民団施設やウトロ地区での放火事件 求められる在日コリアンへのヘイトクライム対策

◇株式会社吉野家ホールディングス就職差別事件に

◇三木市協第50回総会開催

◇兵庫の彼方此方(あちこち)から17 当たり前の営みを通して

解放新聞広島県版 2428 (解放新聞社広島支局刊 2022.7.5)

◇部落解放・人権政策確立要求第一次中央集会 報告

◇第74回県連大会 一般活動方針(案)

解放新聞広島県版 2429 (解放新聞社広島支局刊 2022.7.15)

◇2022部落解放・人権啓発講座に600人参加

◇第74回県連大会 一般活動方針 (前号の続き)

解放新聞広島県版 2430 (解放新聞社広島支局刊 2022.7.25)

◇狭山事件の再審を求める市民集会 東京・日比谷で開催

◇第65回全国女性大会に参加して 府中市協 芝内清恵

解放新聞広島県版 2431 (解放新聞社広島支局刊 2022.8.5)

◇部落解放同盟第79回全国大会(6/8・9)報告

◇広島県連執行委員会(6/18)が呉市に対して、川尻町差別落書き事件を市民に周知することなど申し入れることを確認

◇[主張] 県連大会を終えて

◇第65回全国女性集会に参加して 冨中宏枝

◇[地域版] ・南部地域協議会第52回定期大会(6/12)部落解放運動を後継者に引き継ぐことを確認

・部落解放・人権確立を求める山県地区連絡会第18回総会・講演会を実施

解放新聞広島県版 2432 (解放新聞社広島支局刊 2022.8.15)

◇7/24 広島県連第74回定期大会関連記事

◇[主張] 差別情報の公開を許さず、控訴審で完全勝利をめざそう

◇第65回全国女性集会に参加して 正木和子

解放新聞広島県版 2433 (解放新聞社広島支局刊 2022.8.25)

◇8/4 被爆77周年原水爆禁止世界大会・広島大会開

会総会関連記事

◇7/19 浄土真宗本願寺派鹿児島教区委員会「是旃陀羅」問題をテーマに公開学習会開催

◇7/15 広島県共闘会議「就職差別撤廃」要請行動

◇[主張]「旃陀羅」問題と真摯に向き合う僧侶

◇第65回全国女性集会に参加して 石山小百合

◇[地域版]

・6/19 南部協女性部第51回定期大会開催

・7/1 大崎上島町協第20回定期大会開催

・5/21 おのみち八の日実行委員会女性集会開催

解放新聞広島県版 2434 (解放新聞社広島支局刊 2022.9.5)

◇「全国部落調査」復刻版出版事件の控訴審関連記事

◇子どもの進路を保障する教育運動の再構築をめざして 7/24 広島県連と広教組の連携の会開催

◇広島県連 安倍元首相の「国葬」に抗議文

◇被爆77周年原水爆禁止世界大会・広島大会基調(下)

◇[主張] 真の民主主義をめざして

◇第65回全国女性集会に参加して 大宮弘子

◇[地域版]

・北広島町協第18回定期大会・学習会(7/3) 開催

・竹原市協女性部第48回定期大会実施

・7/5 2022部落解放・人権政策の確立を求める東部ブロック集会実行委員会開催

かけはし 3 (香川県隣保館連絡協議会刊 2022.7)

◇隣保ソーシャルワーカーは、かくして生まれた2 宮島喜輝

◇[隣保館紹介] 坂出市西庄文化センター

◇[100円モーニングの紹介] 善通寺隣保館「ふれあいモーニング」

◇[隣保館活動紹介] 丸亀市二軒茶屋総合センター

◇[研修報告] 香川県隣保館関係職員研修会

語る・かたる・トーク 329 (横浜国際人権センター刊 2022.7.20) 550円

◇国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニ

想1

◇6/24「真実の一つ！石川さんは無実だ！狭山事件の再審を求める墨田区集会」開催

◇台東区人権条例制定を求める懇談会紹介

◇8/3 全国部落調査復刻盤出版事件控訴審開始

解放新聞栃木版縮小版(上)・(下) (解放新聞社栃木支局刊 2022.5) 各 2,000 円

解放新聞奈良県版 1170 (解放新聞社奈良支局刊 2022.7.10) 50円

◇県連「水平社創立100年 先輩を偲ぶ集い」を開催

◇奈良県人権・部落解放研究集会 第1回実行委員会報告

◇2022年部落解放全国保育活動者会議 報告

◇県連第64期第1回県委員会 報告

◇第73回全人教大会成功に向けた現地実行委員会第3回全体会 報告

◇「いきいきまちづくり推進事業」講評

◇大福吉備支部第59回定期大会 開催

◇杏中支部、横井支部総会 開催

解放新聞奈良県版 1171 (解放新聞社奈良支局刊 2022.7.25) 50円

◇水平社創立100周年「先輩を偲ぶ集い」開催

◇寺澤亮一奈良人権部落解放研究所理事長が逝去

◇「差別をなくす強調月間」関連記事

◇奈良県人権教育推進協議会が部落問題講座 市民ら約200人参加

解放新聞奈良県版 1172 (解放新聞社奈良支局刊 2022.8.10) 50円

◇奈良企業連 2022年度法人会員の集い関連記事

◇奈良県人権部落解放研究所「これからの時代のための総合人権講座」報告

◇奈良人権文化センター オンライン講演「差別をなくす人権を考える集い」配信

◇7/22 奈良平和フォーラム・原水爆禁止奈良県協議会総会開催

◇『願う』平和から『叶える』平和へをテーマに連合奈良 2022原爆展開催

◇「中和少年少女水平社100周年記念行事」関連記

事

◇奈良県立同和問題関係史料センター「県民歴史講座」スタート

解放新聞奈良県版 1173 (解放新聞社奈良支局刊 2022.8.25) 50円

◇奈良県市町村人権・同和問題啓発活動推進本部連絡協議会 8/10 第19回シンポジウム開催

◇奈良県連 7/1「水平社創立100周年 先輩を偲ぶ集い」浄土真宗本願寺派 廣岡祐渉さん「光をもとめて一水平社100年 黒衣同盟100年」講演

◇[本の紹介]『知っておきたい部落問題学習のいま』奈良人権部落解放研究所刊 800円+税

解放新聞兵庫版 895 (解放新聞兵庫支局刊 2022.7.5)

◇部落解放同盟 第79回全国大会 報告

◇全国高校生・青年活動者会議 報告

◇兵庫県連青年部 28期第二回学習会 水平社博物館館長駒井さんが講演

◇ひょうご部落解放・人権研究所 総会と人権セミナー開催

◇兵庫の彼方此方から16「今までの私とこれからの私」

◇兵庫県連教宣部連続学習会で兵庫県水平社のあゆみを学ぶ

解放新聞兵庫版 896 (解放新聞兵庫支局刊 2022.8.5)

◇[主張]女性集会の成功をめざそう

◇7/2 ひょうご部落解放・人権研究所 同和対策事業を振り返る人権セミナー開催

◇7/16 兵庫県連青年部第29回大会 沖縄を考える映画上映会開催

◇第6回モニタリング団体ネットワーク会議 現況報告

◇7/5 教育文化運動部 県教委交渉で人権研修の在り方など要望

◇7/17 兵庫県人権保育研究協議会 総会・学習会開催

◇6/29 但馬共闘会議総会開催

予測システム導入事業費についても説明。

- ・教育庁 京都式「教育DX」推進事業の説明。
スマートスクール推進事業でタブレット購入補助、情報通信技術支援員の各校1名の配置など説明。など

◇7/28 報道関係者向け「全国部落調査」復刻版出版事件の控訴審前の学習会を行う

◇京都府連各地で支部大会

- ・6/23 千本支部第52回定期大会
- ・7/24 八木支部第52回定期大会
- ・7/12 第56回六区支部定期大会

◇7/20 部落解放第25回京都府人権・解放保育研究集会第1回実行委員会開催

◇7/22 部落解放人権政策確立要求京都府実行委員会第37期第6回幹事会開催

解放新聞京都版 1238（解放新聞社京都支局刊 2022.9.1）

- ◇「全国部落調査」復刻版出版事件控訴審関連記事
- ◇8/3 部落解放人権政策確立要求京都府実行委員会第38回大会関連記事

◇田中支部が100周年誌発行

◇11/22 「第2回 K Y O のあけぼのフェスティバル 2022」案内

◇『表現の不自由展 K Y O T O』報告 撤去や排除の作品一堂に展示

◇丘支部「識字学級ふきのとう」トートバックやパネルを制作

◇7/22 リバティおおさか企画展報告 『あらためて考えよう！ 水平社宣言』をテーマに朝治武館長ギャラリートーク

解放新聞滋賀版 2434（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.7.5）

◇部落解放同盟滋賀県連合会第75回定期大会運動方針(案)

解放新聞滋賀版 2435（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.7.15）

◇部落解放同盟第79回全国大会報告

解放新聞滋賀版 2437（部落解放同盟滋賀県連合会

刊 2022.8.5）

◇参議院選・知事選 関連記事

解放新聞滋賀版 2438（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.8.15）

◇7/13 滋賀人企連と滋賀県連合会情報交換会を開催

◇滋賀県民平和・人権運動センターと護憲・原水爆禁止滋賀県民会議による自治体要請行動(7/20 米原市・多賀市・豊郷町)報告

◇企業連主催のインボイス制度について各支部・ブロック別に学習会開催

解放新聞滋賀版 2439（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2022.8.25）

◇7/26 第32回部落解放滋賀県民会議総会開催

◇7/30 太鼓づくりに親子で挑戦 滋賀県人権センター事業開催

解放新聞東京版 1016（解放新聞社東京支局刊 2022.7.1）110円

◇書評「ごみ清掃の仕事」の場で培われてきた「誇り」井桁碧

◇部落解放第65回全国女性集会が熊本で3年ぶりに開催

◇狭山最再審要求北部集会開催 44人が参加

◇第8回部落問題東京講座開催 4つの講座に93名が参加

◇「復刻版」裁判「控訴審」闘争勝利を課題に 東京部落解放研究所第11回総会開催

◇水平社創立100年 一差別との闘い歴史（3）朝治武

解放新聞東京版 1017（解放新聞社東京支局刊2022.8.1）110円

◇7/13 部落解放第54回東日本研究集会関連記事

◇5/23 上野駅「狭山事件の再審を求める情宣行動」実施

◇葛飾支部社会教育リーダー会議が6/4・5に実地踏査と部落問題学習の宿泊研修会を実施

◇6/26 足立支部第52回定期大会開催

◇6/17 江東支部第48回定期大会開催

◇部落解放第65回全国女性集会 都連女性部参加者感

◇石川一雄さんビデオメッセージを中央本部ホームページで公開

◇[河内ブロックかわら版]

- ・相次ぐ八尾市の差別事件に対して、西郡支部と安中支部が8/5 街宣行動実施
- ・河内水平社創立100周年記念集会 7/16 富田林地域で開催

解放新聞改進黨 552 (部落解放同盟改進黨支部刊 2022.7.20)

◇部落解放同盟改進黨支部第51回定期大会 開催

◇支部長・書記長に闘う決意を聞く

◇2022年度第2回教育懇談会 開催 テーマ「しんどい子どもたちを取り巻く状況1 —ICT教育 中学校—」 講師:林秀晃さん

◇[本の紹介]「日本人の宿題 歴史探偵、平和を謳う」半藤一利 著 解説:保坂正康 NHK出版

解放新聞改進黨 553 (部落解放同盟改進黨支部刊 2022.8.20)

◇藤森竹田児童館「NPO人権ネットワーク・ウェブ21」取組紹介

◇2022年度教育懇談会開催 テーマ「しんどい子どもたちを取り巻く状況2 —ICT教育 小学校—」 講師:佐伯卓也さん

解放新聞京都版 1234 (解放新聞社京都支局刊 2022.7.1) 70円

◇部落解放同盟第79回全国大会開催 西島藤彦執行委員長選出—京都府連からは朝田元委員長以来—

◇第35回人権啓発京都府集会開催—「自分らしく」いられる社会へ—

◇全国大会 分散会「狭山再審勝利へ機運を高めよう—方針の補強・具体化求める」

◇人権啓発京都府集会でトークセッション「女性たちのコロナ禍」

◇差別主義者は許せない 第2回公判 ウトロヘイトクライム裁判

◇連載「よき日」へ—それぞれの歩み 笠置町 宮葉茂雄さん

◇現場の声を国会に届けよう 府連が北部時局講演会

を共催

解放新聞京都版 1235 (解放新聞社京都支局刊 2022.7.15) 70円

◇京都府連女性部第28回大会を開催「語り合える女性活動を」

◇西島中央委員長が決意を語る

◇来年2月の 第43回全国人権保育研究集会に向け 部落解放全国保育活動者会議 開催

◇第51回部落解放同盟山城地区協議会総会 開催

◇部落解放同盟京都府連合会 第1回青年対策部会議 開催

◇部落解放京都地方共闘会議 就職差別撤廃の要請行動

◇8月30日ウトロ放火事件判決 第三回公判検察は懲役4年を求刑

解放新聞京都版 1236 (解放新聞社京都支局刊 2022.8.1)

◇7/2 第1回京都府連委員会で第69期、第70期の執行部体制を確認 ネット対策本部を立ち上げ

◇7/1 南丹地協第42回定期総会開催

◇7/11 第1回京都府連女性部委員会開催

◇7/6「人にいちばん近いまちづくり」福知山市実行委員会第38回大会開催

◇さらなる闘いの構築を 6/15 改進黨支部、7/2 久世支部が定期大会開催

◇7/6「第6回モニタリング団体ネットワーク会議」現状報告

◇[連載] 第5回「よき日」へ—それぞれの歩み 京都府連・同盟員への聴き取りから 北井百合美さん

解放新聞京都版 1237 (解放新聞社京都支局刊 2022.8.20)

◇7/29 2022年度京都府事業説明会 各部の説明概要

- ・府民環境部 人権啓発活動費からインターネットによる人権侵害対策費を説明。モニタリングの継続。差別書き込み対策の検討会設置。「京都ヒューマンフェスタ2022」開催決定。

- ・建設交通部 建設DX促進事業費について説明。ICT活用・ICT体験研修実施。水位・氾濫

っこい喫茶」開催

◇NPO人権尊重の矢田まちづくり委員会 学校と地域が協力して防災訓練

解放新聞大阪版 2283（解放新聞社大阪支局刊 2022.7.15）

◇部落解放人権研究所が総会「差別禁止法の制定へ」

◇沖縄平和行進大阪府青年部から5人が参加

◇反差別国際運河第34回総会開催

◇北摂ブロックかわら版 人権のまちづくりへ 沢良宜・吹田光明町が支部大会開催

解放新聞大阪版 2284（解放新聞社大阪支局刊 2022.7.25）

◇ジェンダー平等の実現へ 水平社100年をふまえて前進を 府連女性部第52回大会開催

◇河内ブロックかわら版

[富田林] 戸籍不正入手に関する本人通知制度の全通知制度導入についてなんざい哲平富田林市議員が議会質問を行う

[向野] 向野支部が行う近隣小中学へのリモート部落問題学習 7月から対面で実施

解放新聞大阪版 2285（解放新聞社大阪支局刊 2022.8.5）

◇7/23 第1回大阪府連拡大執行委員会開催 中央政策・連携会議を設置

◇8/6 大阪水平社100周年記念集会開催「101年目からの運動を展望する」テーマにシンポジウム

◇101年目からの運動推進をめざして、6/13「大阪府人権協会設立20周年記念の集い」

◇第69期大阪府連執行体制一覧

◇大阪人権博物館(リバティおおさか)企画展「もっと知ろう！水平社100年の歴史」関連記事

◇部落解放大阪府民共闘会議 7/23に水平社博物館はじめとする人権のふるさとをフィールドワーク

◇[北摂ブロックかわら版]

・7/23 鶴原支部3年ぶりの親子体験広場を開催。

・鶴原支部 映画『破戒』上映鑑賞運動を友鶴会中心に小中学校や関係団体と連携し推進

・7/15 第49回貝塚支部定期大会開催

解放新聞大阪版 2286（解放新聞社大阪支局刊 2022.8.15）

◇7/27 同和問題解決(部落解放)・人権政策確立要求大阪実行委員会第30回総会開催

◇[水平時評] 明治元年から敗戦、敗戦から今年77年目の悪夢としないために 赤井隆史

◇雇用差別の撤廃に向けて 2022年度公正採用実務者研修会を7/8に開催

◇大阪府連青年部主催「ぶらコム.net」が「出身問わず語る場」としてボーリング大会を7/16に開く

◇[大阪市内ブロックかわら版]

・大切な地域コミュニティ「入船温泉」が、浅香・加島・矢田のA K Yまちづくり合同会社の協力を得て平野支部とH R Cコンサルティングが運営し、8/4リニューアルオープン

・隣保館をまちづくりの中心に 西成支部・住吉支部大会

◇7/15「かしまスイスイ(子ども)食堂」久しぶりの対面(通常)開催でにぎわう

解放新聞大阪版 2287（解放新聞社大阪支局刊 2022.8.25）

◇8/6 大阪水平社創立100周年記念集会開催

◇第4期の部落解放運動(水平社創立101年目からの決意表明)基調提案

◇大阪府水平社創立100周年 功労者・物故者表彰者

◇大阪水平社創立100周年記念集会シンポジウム

◇[北摂ブロックかわら版]

・道祖本支部定期大会運営と合わせて映画『破戒』鑑賞推進活動実施

・地域人権FM放送局「総持寺局」(茨木市人権三島地域協議会運営)が配信開始。

・大阪府連『大阪の部落解放運動100年の歴史と展望』発刊。「水平社100年記念切手」も作成。

解放新聞大阪版 2288（解放新聞社大阪支局刊 2022.9.5）

◇「全国部落調査」復刻版出版事件の控訴審関連記事

◇7/16 識字・日本語連絡会が総会関連記事

を開催

◇[兵庫支局] 第63回兵庫県連定期大会 書面決議で
議案承認 兵庫県連が兵庫県を通じてウクライナ
に支援金を託す

◇[栃木支局] 反差別・人権を基軸とした国内外の連
帯・協働をめざして第50回栃木県連定期大会開催

◇[大阪支局] 大阪・難波で狭山街頭行動実施

◇部落問題と沖縄の人権問題を考える西日本夏期講
座をオンラインで開催

◇日本カトリック部落差別人権委員会などが「水平
社100年シンポジウム 人の世に熱あれ 人間に光あ
れ」を開催

◇部落解放・人権研究所の識字・成人基礎教育研究
会が和歌山県新宮市を訪問「蓄積する歴史と現在
のとりくみから部落解放を学ぶ」

解放新聞 3036 (解放新聞社刊 2022.8.15) 115円

◇[主張] 憲法改悪・軍拡を許さず、反戦・平和のと
りくみを強化しよう

◇5/23 国土交通省交渉 公営住宅建て替え問題など
を中心に意見交換

◇第48回部落解放文学賞 表彰式

◇[広島支局] 5/21 狭山事件の再審を求める福山集
会開催

◇[大阪支局] 6/11 大阪府連第69回定期大会開催

◇[東京支局] 5/7 東京都連第63回定期大会開催

◇[北陸支局] 6/8 部落解放にとりくむ富山県連絡会
議開催 6/2 人権フォーラム石川第24回定期大会
開催

◇[京都支局] 6/3 人権啓発京都府集会開催

◇「だい32かいよみかきこうりゅうかい」から6
浅香識字・日本語教室 坂口みどりさん (昨11/28
全大会発表)

解放新聞 3037 (解放新聞社刊 2022.8.25) 115円

◇8/3東京高裁「全国部落調査」復刻版出版事件の
控訴審第1回口頭弁論開かれる

◇7/16 識字・日本語連絡会が総会開催

◇[本の紹介] 『春遠からじ～思い出のピースたちと
～』組坂道子著/解放出版社/A 5判/192頁/ 1,500

円+税 岡田耕治(大阪教育大学特任教授)が紹介

◇全水100周年記念映画『破戒』感想文コンクール
案内

◇映画『破戒』関連記事 埼玉支部・大阪支部

◇[滋賀支局] 滋賀県の「人権に関する県民意識調査」
公表

◇[東京支局] 5/23 狭山青年共闘会議が狭山事件の
再審を求める情宣行動

◇[大阪支局] 6/13 一般財団法人大阪府人権協会設
立20周年記念の集い

◇[徳島支局] 7/16 部落解放徳島地方共闘会議、
「2・11集会実行委員会(徳島県連などで組織)」
主催 2・11「日の丸・君が代・天皇制」を考え
る徳島集会を開催

◇[神奈川支局] 6/19 神奈川県連第49回定期大会開
催

◇「だい32かいよみかきこうりゅうかい」から 7
高砂日本語教室

解放新聞愛知版 510 (部落解放同盟愛知県連合会
刊 2022.7.1)

◇部落解放同盟愛知県連合会主催 第46期部落解放講
座 6月15日開催

◇[第46期部落解放講座報告]

・「和歌山県部落差別解消推進条例」制定の意義
と取り組みについて 森本吉郎さん

・「愛知県人権尊重の社会づくり条例」に基づく
施策の推進について 大橋充人さん

◇映画『破戒』愛知県の劇場公開 案内

解放新聞大阪版 2282 (解放新聞社大阪支局刊 202
2.7.5)

◇水平時評 「ツイッター社の『ゼロ回答』 差別
を禁ずる法整備が急務」 赤井隆史

◇全国水平社創立100周年記念映画『破戒』の鑑
賞を推進しよう 7月8日から上映

◇大阪市内ブロックかわら版 大阪市ブロック会議
「住宅自治活動の推進を」

◇城北同和教育推進連絡協議会総会 開催

◇すみよし隣保館 寿で 地域住民の憩いの場「ど

◇ニューメディア人権機構が総会 映画「私のはなし、部落のはなし」の満若監督が記念講演

◇憲法改悪に断固反対 大阪平和人権センターが総会

◇地域共闘だより 人間の尊厳や平等を学ぶ 泉佐野・田尻・熊取共闘会議が水平社博物館で人権研修

解放共闘大阪 1136（部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.7.15）

◇部落解放・人権研究所 2022年度定時総会 開催

◇清掃労働者の差別撤廃へ 大阪清掃人権問題研究会 総会 開催

解放共闘大阪 1137（部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.8.1）

◇部落解放大阪府民共闘会議 奈良水平社博物館フィールドワーク

◇7/15 平和と人権を考える講座 開催

解放共闘大阪 1138（部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.8.15）

◇大阪府水平社創立 100 年記念集会 関連記事

解放新聞 3033（解放新聞社刊 2022.7.15）115円

◇主張 部落解放同盟第79回全国大会 報告 「第79回全国大会の成果を踏まえ部落解放運動を大きく前進させよう」

◇第79期 第一回中央執行委員会開催

◇IMADRが総会「戦争に反対し差別の撤廃を」

◇映画『破戒』の上映スタート

◇狭山事件の再審を求める市民集会 「石川さんのみえない手錠をはずすために狭山事件の再審を実現しよう！」

◇第1回西光万吉文化・平和活動奨励賞 6団体に

◇部落解放同盟第79・80期 中央役員一覧

◇和歌山県連青年部 西光邸で学習「不戦和栄」の遺伝子引き継ぐ

◇全国水平社創立100周年記念 映画『破戒』感想文コンクール 案内

解放新聞 3034（解放新聞社刊 2022.7.25）115円

◇[特集]「全国部落調査」復刻版・控訴審勝利に向けて(上) 一鳥取ループ・Mの控訴理由書批判 原

告団長 片岡明幸

◇[主張] 第49回部落解放文学賞 作品募集案内

◇第79期第1回中央委員会 新執行部体制などを確認

◇埼玉で「埼玉県部落差別の解消の推進に関する条例案」可決 部落差別の禁止を明記

◇人権短歌をよむ会「交差点」6月の会 負の歴史を軽くみてはいけない

◇部落解放全国解放保育活動者会議 開催 全人保の成功に向けて開催要綱など確認し実践交流

◇部落解放・人権研究所が第11回総会 開催 差別禁止法の具体化へ

◇法務省交渉「差別扇動の放置による被害拡大の実態を追及」

◇美作騒擾150年 追悼の集いを終えて

◇[本の紹介]『全国水平社 1922-1942 一差別と解放の苦悩』朝治武 著 筑摩書房/新書版/320頁/940円+税 紹介:畑中敏之

解放新聞 3035（解放新聞社刊 2022.8.5）115円

◇[特集]「全国部落調査」復刻版・控訴審勝利に向けて(下) 一鳥取ループ・Mの控訴理由書批判 原告団長 片岡明幸

◇[主張] 徳島でひらく全国高校生集会・全国青年集会に結集し、全国の仲間とともに運動の前進を

◇[本の紹介]『シリーズ・お仕事探検隊 ごみ清掃のお仕事』押田五郎 著 解放出版社/A5判/266頁/1,800円+税 紹介:藤井正一郎

◇[奈良支局] 奈良県水平社創立100周年記念レセプション開催

◇[大阪支局]「水平社創立100周年を授業でどのように教えるか」をテーマに大阪・松原で学習会

◇[新潟支局] 新潟県交渉で「差別を現実視した政策をしてほしい」と指摘

◇[大分支局] 人権・平和の確立と真の水平社会めざし、第50回大分県連定期大会開催

◇[愛知支局] 第47回愛知県連定期大会開催 11月10日に愛知県水平社100周年記念集会を実施予定

◇[香川支局] 部落解放に向けて「水平運動」の新たな歴史を刻んでいこうと第69回香川県連定期大会

収集逐次刊行物目次 (2022年7月～9月受入)

—各逐次刊行物の目次の中から部落問題に関係のあるものを中心にピックアップしました—

朝田教育財団だより 37 (朝田教育財団刊 2022.8)

◇朝田善之助生誕120年・朝田教育財団設立40周年
記念の集い(7/3)関連記事

◇[研修報告] 朝田善之助記念第40回同和教育研修会

◇[寄稿] 法律制定過程に関わって 国府泰道

◇[寄稿] 映画評『私のはなし、部落のはなし』—いま、部落問題を考える手がかりとして 山本崇記

◇[理事会・評議会報告] 6/2 朝田教育財団第27回理事会開催

◇[奨学生募集] 朝田教育財団 奨学生2023年度募集要項

明日を拓く 133 (「明日を拓く」編集委員会刊 2022.7.25) 1,000円+税

◇[特集1] 「全国部落調査」復刻版出版事件の判をどう受け止めるか 2021年度第4回定例研究会の記録「全国部落調査」復刻版出版事件判決の問題点 片岡明幸

◇[特集2] 部落の「属性」の否定という共通点は何を意味するのか—ラムザイヤー・鳥取ループ・法務省 — 2021年度第4回定例研究会の記録 部落の「属性」の否定という共通点は何を意味するのか 吉田勉

◇[書評] 朝治武、谷元昭信、寺木伸明、友永健三 編著『続 部落解放論の最前線 水平社100年を踏まえ

た新たな展望』鳥山洋

IMADR通信 211 (反差別国際運動刊 2022.8.9)

◇[特集] 先住民族の権利—続く植民地主義との闘い

・琉球先住民族の遺骨盗掘問題 松島泰勝

・国際水準の遺骨、土地返還の権利 上村英明

・先住民族の副葬品、遺骨および無形文化財の返還

◇不可視化に抗するために—100年前の部落女性何を伝えようとしたか1 宮前千雅子

◇[本の紹介] シリーズお仕事探検『ごみ掃除のお仕事』押田五郎著/解放出版社/2022.6/1,800円

UTORO letter[ウトロ レター] 1 (ウトロ平和祈念館運営展示部会刊 2022.7.1)

◇『UTOROレター』が始まります!

◇宇治ウトロ地区放火事件裁判について

◇サポーター募集案内

大谷学報 98 (大谷大学大谷学会刊 2019.3.15)

◇近世京都における都市開発と新地形成 一妙法院と七条新地— 平野寿則

解放共闘大阪 1135 (部落解放大阪府民共闘会議刊 2022.7.1)

◇解放同盟府連第69回大会 水平社100年を新たな解放運動の始まりに 赤井委員長・高橋書記長体制に

◇「水平社博物館」フィールドワークのお知らせ

事務局より

◇今号の「論文紹介」は著者の西村優汰さんが、全国水平社・京都府水平社創立100周年を記念して、2022年4月2日に自費出版した冊子から転載いたしました。

◇今回、センター通信の発行が遅れましたことをお詫びいたします。

□所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター 3階

□TEL/FAX 075-415-1032 □E-mail qm8m-ndmt@asahi-net.or.jp

□URL <http://shiryo.suishinkyokai.jp>

□開室時間 月曜日～水曜日・金曜日・第2・第4土曜日10時～17時(祝日・年末年始は休みます)

□交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口駅」(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩5分